

G空間EXPO2021 開催報告書

令和4年2月
G空間EXPO運営協議会

目次

1. 開催概要		1
2. メッセージゾーン		7
3. 地理空間情報フォーラム		1 1
4. Geoアクティビティコンテスト		3 3
5. 講演・シンポジウム		5 1
6. 広報		6 5
[参考] アンケート結果		7 9
〃 開催実績		8 1

1. 開催概要

主催：G空間EXPO運営協議会

開催概要

■ 開催概要

1. 名称 G空間EXPO2021 Geospatial EXPO2021 Japan
2. 開催方式 実地開催及びオンライン開催
3. 期間 【実地開催】 2021年(令和3年)12月7日(火)・8日(水) 10:00～17:00
【オンライン開催】 12月1日(水)10:00 ～ 26日(日)17:00
4. 会場 東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区海岸1-7-1）
5. 対象 児童・生徒から社会人まで幅広い層 / 入場料【実地】：無料
6. 主催 G空間EXPO運営協議会
公益社団法人日本測量協会 一般社団法人全国測量設計業協会連合会
一般社団法人日本測量機器工業会 公益財団法人日本測量調査技術協会
一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構
一般財団法人日本情報経済社会推進協会
一般社団法人地理情報システム学会
内閣官房 内閣府宇宙開発戦略推進事務局
国土交通省不動産・建設経済局 国土交通省国土地理院
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
7. 来場数・アクセス数
【実地開催】 来場数 1,022名
【オンライン開催】 アクセス数 51,330件（1,974件／日）

【実地開催】【オンライン開催】

テーマ・ロゴ・キービジュアル

■統一テーマ

「地理空間情報科学で未来をつくる」

G空間EXPO開催の根幹的な意義を示す標語。2013(平成25)年度より掲揚。

■年次テーマ

「デジタル改革、G空間DX!!」

統一テーマを踏まえつつ社会の流れや移り変わりに沿う時宜的な標語。一年度限り。

■タイトルロゴ



■キービジュアル



開催構成（イベント概要、フロアマップ）

■ G空間EXPOメッセージゾーン

G空間EXPOの導入部。G空間情報の利活用例を、「防災・減災等」、「産業」、「暮らし」の各分野別にパネルで展示。

■ 地理空間情報フォーラム

企業、団体、機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介。高度で専門的な展示を通じ、G空間社会をもっと知りたい方々、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応。

主催：測量関係4団体（公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会）

■ Geoアクティビティコンテスト

公募で選ばれた地方公共団体・教育関係者・学生・NPO・民間企業等が、先進的な取組、独創的なアイデア、新たなサービス、ユニークな製品、画期的な技術等を展示。参加者や来場者が出会い、新たなアイデアが生まれる場を提供。

主催：国土交通省国土地理院

■ 講演・シンポジウム

G空間社会を支える「みちびき」をはじめとした測位技術の最新情報、関連する研究の成果、製品化の情報、業界や新技術の動向について講演・シンポジウム形式で発信。

主催：一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構



【実地開催】

開会式（オープニングセレモニー）

■日時 令和3年12月7日（水） 10:00～10:20

■会場 4F展示室メインステージ

■内容 主催者挨拶（10:00～）
テープカット（10:15～）

【主催者挨拶】

国土交通副大臣 中山 展宏 〔写真左〕

公益社団法人日本測量協会会長 清水 英範 〔中〕

一般財団法人衛星測位利用推進センター
常務理事 三神 泉 〔右〕



【テープカット】



〔写真左から〕

一般社団法人地理情報システム学会長

一般財団法人衛星測位利用推進センター常務理事

公益社団法人日本測量協会会長

国土交通副大臣

国土交通省国土地理院長

国土交通省不動産・建設経済局次長

内閣府宇宙開発戦略推進事務局長

大佛 俊泰

三神 泉

清水 英範

中山 展宏

飛田 幹男

吉田 誠

河西 康之

配信画面（メインページ）

■ オンライン開催 配信画面

G空間EXPO公式HP (<http://www.g-expo.jp>) をオンライン会場とし、次のように構成・表示した。



■ 「コンテンツはこちら」

コンテンツ配信画面（オンライン会場）へ遷移するバナーの配列

- ・地理空間情報フォーラム（☞詳細は P.11～32）

主催：公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、
一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会

- ・Geo アクティビティ コンテスト（☞詳細は P.33～50）

主催：国土交通省国土地理院

- ・講演・シンポジウム（☞詳細は P.51～64）

主催：一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構

■ 「出展内容（一部）」

新着、注目の配信コンテンツのアイコンを順不同で掲示。クリックで動画へ遷移する。随時更新。

※図はマスキングしている。

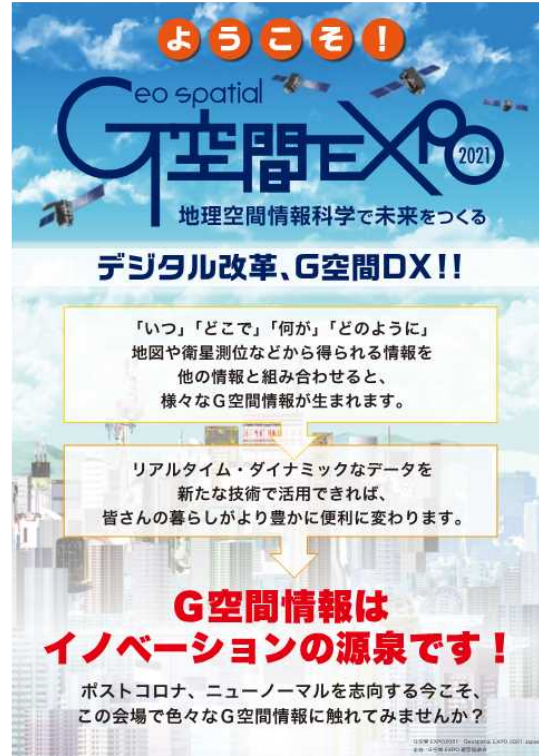
2. メッセージゾーン

主催：G空間EXPO運営協議会

メッセージゾーン

■ メッセージゾーン

G空間情報の利活用例を、「防災・減災等」、「産業」、「暮らし」の各分野別に、実地会場においてパネル展示。



メッセージゾーン



■ 展示状況



3. 地理空間情報フォーラム

主催： 公益社団法人 日本測量協会
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
一般社団法人 日本測量機器工業会
公益財団法人 日本測量調査技術協会

地理空間情報フォーラム

■ 実施概要

企業・団体・機関等の動画・写真等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介しました。各出展者による高度で専門的な動画を通じ、G空間社会についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応しました。

名称 地理空間情報フォーラム2021

会期 オンライン開催：2021年12月1日(水)～12月26日(日)
実地開催：2021年12月7日(火)～12月8日(水)

会場 オンライン開催：G空間EXPO2021WEBサイト内
実地開催：東京ポートシティ竹芝（東京都立産業貿易センター 浜松町館4F）

主催 公益社団法人 日本測量協会
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
一般社団法人 日本測量機器工業会
公益財団法人 日本測量調査技術協会

■ 出展者一覧

小間No.	出展名
1	あっとクリエーション 株式会社
2	株式会社 みるくる
3	一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構
4	アジア航測 株式会社
5	ESRIジャパン 株式会社
7	朝日航洋 株式会社
8	株式会社 快適空間FC
9	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 / 準天頂衛星システムサービス 株式会社
10	株式会社 パスコ
11	リーグルジャパン 株式会社
12	国土交通省
13	国際航業 株式会社
14	株式会社 オーピーティー
15	株式会社 カクマル
16	国土交通省 国土地理院
17	ソフトバンク 株式会社
18	株式会社 デバイスワークス・北海道技建 株式会社
19	株式会社 サテライトイメーজマーケティング
20	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
21	株式会社 ビーシステム
22	一般財団法人 日本地図センター
23	G空間情報センター
24	一般社団法人 日本測量機器工業会
25	公益社団法人 日本測量協会
26	「測量の日」実行委員会
27	図書コーナー

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
1	あっとクリエーション 株式会社	Googleマップ以上GIS未満の、ノーコード地図システム「カンタンマップ」	もう自治体に、GISは必要ない!? クラウドデータベースシステム「kintone」と連携して動作する、ノーコード開発地図システム「カンタンマップ」。 オプションを追加するだけで、ゼンリン住宅地図やハザードマップが利用でき、GISの専門知識やプログラミングなどの技術がなくても、自分でカスタマイズが可能。 自分たちが必要な地図システムが、自分で作れます。 神戸市や豊橋市・富谷市など他多数の自治体で、採択実績あり。防災・施設管理・福祉・道路パトロールなど、さまざまな分野で使われている。 空き家や街路灯調査など、100案件以上の点検業務で、建設コンサルタントでの利用実績あり。
2	株式会社 みるく	航空写真測量デジタル・カメラ・システム UltraCamと三次元マッピング・ワークフローUltraMap	Digital Twinという言葉が私たちに聞こえ始めて久しいですが、プラットフォームとなる三次元空間モデルは不可欠なものです。その構築に世界で最も多く利用されるUltraCamとUltraMapワークフローをご紹介します。
3	一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構	衛星測位 新生J-Spacesystemsの取り組み	去る3月、(一財)衛星測位利用推進センターは(一財)宇宙システム開発利用推進機構と合併し、新体制となって初めての出展です。衛星測位を取り巻く環境も、国内では国産測位衛星「みちびき」の公式サービス開始、初号機予備機の打ち上げ成功、全世界では100機を超える測位衛星が軌道上に展開するなど大きく変化しています。今回は、「新生J-Spacesystemsの取り組み」と題し、財団の推進するCLAS補正情報変換配信システムCLARCS、測位応用の最新情報、弊財団が事務局として推進する高精度衛星測位サービス利用促進協議会「QBIC」の概要などを紹介します。
4	アジア航測 株式会社	AASDXが創る、明日のG空間	私たちの経済活動や日々の生活は、気候変動や生物多様性の危機、大規模災害の誘引など、持続可能な社会を阻害する問題を抱えています。これらの課題解決には、さまざまな利害関係者と調整しながら、サステナビリティを軸としたより良い選択をしていく必要があります。そのためには適正な量と精度に基づいたデータを客観的に整理・分析し、ステークホルダー間で共有して相互の意思疎通を図ることが不可欠です。 センシング、IoT、AI、ARなどの技術を用いて、人やモノの位置や動きを把握し、仮想空間に物理空間の環境を再現、シミュレートによる将来予測、さらには可視化して相互の円滑なコミュニケーションを図る。 「AAS-DX」はこれまで培ってきたアジア航測の技術そのものです。人間・社会・地球環境の持続可能な発展のために。私たちは、確実にずっと続く“明日のG空間”を、皆様とともに創ってまいります。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
5	ESRIジャパン 株式会社	GISプラットフォーム「ArcGIS」	GIS（Geographic Information System：地理情報システム）は、地球上にある事物の位置や形状の情報と、文字や数値の属性情報から構成される地図（地理情報）を、視覚化、分析、管理するための情報システムです。 地図は私達を取り巻く全てのものを体系づけ、理解させてくれます。インターネットが社会基盤となり、クラウドコンピューティングを始めとする IT 社会において、地図はあらゆるシーンで利用され、GIS は必須のツールとして、市場も大きく成長しております。 ESRIジャパンは、Esri（米国）製品の総販売代理店として、ソフトウェアとサービス、そしてシステムの提供を行い、グローバルな GIS コミュニティの成長を支援しながら、社会に貢献してまいります。
7	朝日航洋 株式会社	8Kカメラ搭載計測車両「GT-8K」とオープンソースソフトウェア QGIS	朝日航洋が長年培ってきた移動計測車両による計測技術と超高精細の8K映像技術を融合させて開発した「GT-8K」と、G空間DXにお薦め、誰でも今すぐに自由に使える地理情報システム「QGIS」とコンテンツをご紹介します。
8	株式会社 快適空間FC	多様化を支える、MULTI PLATFORM SOLUTIONS	MULTI PLATFORM SOLUTIONSとは、当社が持つ測量、計測のノウハウを生かし、『企画』『設計』『施工』『開発』を行い、多様化が進む現代社会の問題点をトータルサポートさせていただきます。また、昨今、問題視されている、老朽化が進む社会インフラの維持管理、災害の激甚化、頻発化への備えをMULTI PLATFORM SOLUTIONSがお手伝いさせていただきます。
9	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 / 準天頂衛星システムサービス株式会社	みちびきショーケース	日本版GPSとも呼ばれる準天頂衛星システム「みちびき」は、2018年11月にサービスを開始して以来3年が経過し、各分野での利活用が更に加速しています。また、本年10月には初号機の後継機が打上げられ、2024年を目途に進められている7機体制へと、順調に整備が進められています。 今回の展示では、正確な位置情報を活用した最新の実証実験を紹介するとともに、開発が進む対応製品や受信機、さらには、「みちびき」の災危通報機能を活用した防減災の対応製品について紹介することで、「みちびき」の最先端をご覧ください。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
10	株式会社 パスコ	未来を創る「G空間DX」デジタル化のカギを握る、パスコの最新空間情報技術	パスコは、最先端の空間情報技術により、社会のあらゆる課題を解決しています。本展示会では、「デジタル化のカギを握る最新の空間情報技術」と題し、以下の内容をご紹介します。 1) 最新の空間情報技術 ①河川管理を3次元データで！地上+水底の3次元地形を一気に取得「TDOT 3 GREEN」 ②道路空間からデジタルツインを推進！一度の走行で道路空間データを一挙に取得「Real Dimension」 ③宇宙から高精細に地球を捉える。いよいよ打ち上げへ！国産衛星「ALOS-3」 2) あなたの探し物はここにある。パスコの豊富なアーカイブから生まれた「地図コンテンツ」
11	リーグルジャパン 株式会社	3Dレーザー計測による地理空間情報	レーザースキャナーのパイオニアRIEGL社の 航空レーザー、UAVレーザー、MMS、地上型レーザー、各カテゴリにおける最新機種、最新情報をご紹介します。航空レーザー、UAVレーザー、MMSに搭載される2DスキャナーとしてロングセラーのVUXシリーズが大幅に性能アップされました。これまで以上に、高密度な3次元空間情報が取得可能となります。 地上型レーザースキャナーは、ロボットとのシステムインテグレーションによって、「自動STOP&GO計測」を可能とし、作業負担の軽減はもちろんのこと、プロジェクト全体の大幅な効率化をもたらします。
12	国土交通省	高精度測位社会プロジェクト	国土交通省は、訪日外国人・高齢者・障害者を含む誰もが、屋内・屋外を問わずシームレスに目的地へ円滑に移動できる社会の実現を目指して、産学官連携の「高精度測位社会プロジェクト」を実施しています。 屋内電子地図や屋内測位環境等の空間情報インフラの整備・活用実証を通じたサービスの見える化、屋内空間情報インフラの効率的・効果的な整備手法や継続的に維持・更新する体制の検討を行い、民間事業者等による多様なサービスを創出しやすい環境づくりを推進し、誰もが円滑に移動できるストレスフリー社会の構築を目指します。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
13	国際航業 株式会社	「情報をつなげる力で人・社会・地球の未来をデザインする」～多彩な人材により"はかる"を超えるテクノロジーカンパニー～	国際航業では、社会の未来におけるデザインに寄与すべく、3DやAIなどの先端技術を活用し、国土保全やまちづくりに関わる「計測・解析・利活用」のトータルソリューションを提供しています。 今回のG空間EXPOでは、3D都市モデルの構築や利活用による見える化・防災・まちづくり支援、ハンディレーザースキャナやクラウドを活用した簡単で高精度なモデリング作成や三次元空間解析技術、地理空間情報の救急医療現場における活用や救急搬送時のウェアラブルグラスを用いた遠隔作業支援・情報共有（日本オープンイノベーション大賞 厚生労働大臣賞受賞）など、G空間DXを先導する各種サービスについてご説明いたします。
14	株式会社 オーピーティー	UAVレーザー測量で使用、UAV写真測量でも使用	カメラ搭載ドローンレーザーAA450は、レーザー測量として、または写真測量として使用できます。測量、土木、送電線の検査、農林業の調査などで幅広く使用されています。AA450は軽量かつ堅牢で、写真測量向け24 MPカメラ、高精度慣性航法システム、解析ソフトを含む All in Oneのシステムで、しかも低価格です。付属の解析ソフトでは、Metashapeで使用可能な写真の主点座標（Photoscan.txt）をJGD2011で出力できます。これにより、点群処理ソフトOPT Cloud Surveyで、レーザー点群とMetashape点群を重ね合わせて表示できます。その他、レーザーとカメラのFOVの幅が同じに校正済みで、色ズレの少ないトゥルーカラーの点群データを作成できます。反射強度が鮮明で白黒画像をくっきり表示でき、ターゲット板を容易に認識できます。
15	株式会社 カクマル	情報化施工のお役立ち	「i-Construction」その現場で使用する対空標識を多種多様に取り揃えております。
16	国土交通省 国土地理院	防災・減災における国土地理院の取組	国土地理院は、災害対策基本法の指定行政機関として、測量・地図分野の技術を活かした防災・減災・災害対応施策を推進しています。例えば、災害予防として国民の適切な防災・減災活動や避難行動へつなげるため、災害リスク把握に役立つ情報の整備・提供や防災・地理教育支援を行っています。また、災害発生時には空中写真の緊急撮影や測量及びそれらの結果の解析・判読により、被災状況の把握に必要な情報を集め、政府や地方公共団体等へ速やかに提供しています。これらの情報は国民の人命救助、災害対応、復旧・復興対策等へ役立てられています。 展示ではこれらの取組を簡潔にお伝えし、国土地理院のことを少しでも知って頂ければと思います。 詳しくはリンク先へ！

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
17	ソフトバンク 株式会社	「高精度測位ソリューション」のご紹介	ソフトバンクでは、人工衛星を利用した低コストな高精度測位補正情報配信サービス「ichimill（イチミル）」を提供しております。 「ichimill」は、準天頂衛星「みちびき」などのGNSSから受信した信号を利用してRTK測位を行うことで、誤差数センチメートルの測位を可能にするサービスです。 「ichimillは」農業や自動車業界、建設業界などのさまざまな分野や業界でご活用頂いております。ソフトバンクはこのサービスの提供を通じ、さまざまな業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していきます。
18	株式会社 デバイスワークス・北海道技建 株式会社	GISの利活用～現場PDCAの最適化～	北海道技建株式会社 弊社は今年設立から40周年を迎えた道路標示工事・区画線工事・標識工事などの施工を行ういわゆる『ライン屋』です。本社は北海道ですが当社独自の技術が評価され今回東京2020大会で仕事をする機会を頂き貴重な体験をさせていただきました。我々は道路利用者の安全・安心の為に日々頑張っています。 株式会社デバイスワークス 弊社は土木および都市計画のコンサルタントとして、2006年5月に設立しました。 弊社がお客様に提供するサービスは、“何が出来る”ということ限定せず、弊社の経営理念である「お客様の欲求に対して、弊社独自の工夫（DEVICE）して、付加価値をつけて役に立つ」ことを考えながら企画提案をしていきます。
19	株式会社 サテライトイメージマーケティング	Airbus DSの提供する衛星画像・サービスの紹介	株式会社サテライトイメージマーケティングは、フランスのAirbus Defence and Space(Airbus DS社)が提供する衛星画像と関連製品、サービスを日本で販売している総代理店です。Airbus DS社の30年以上続くSPOTシリーズの現行機であるSPOT6号・7号機は1.5mの分解能を持ち、同じく二基体制で運行する0.5m分解能のPléiadesと同一軌道上を運行しており、いずれもGIS、リモートセンシングの他、様々な分野で利用されております。また、OneAtlasでは毎日アップデートされるこれらの衛星画像をweb上で実際のデータと同じ解像度でストリーミング、閲覧が可能、ダウンロードも簡単に行うことが出来ます。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
20	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	G空間情報解析プラットフォーム	産業技術総合研究所で研究を進めている「人やモビリティ、ロボットの『移動』」に着目したG空間に関する研究開発事例を紹介します。特に、（１）大規模な移動体データ管理・利活用、（２）大規模人流解析、（３）車輪型移動体向け自律航法技術、（４）高精度マーカによる測位、（５）視覚障害者移動支援、（６）自律移動ロボットによる人・環境理解、（７）衛星画像データの活用など、基礎的な研究から応用的な研究までを幅広く紹介します。また自律移動ロボットが会場内を動き回ります。
21	株式会社 ビーシステム	DGIS/点群処理システム「ScanSurvey Z」 調査設計業務、スマート農業、林業もサポート	株式会社ビーシステムは、ソフトウェア開発、コンサルティング、データ業務処理などを行っている会社です。 25年以上に渡り調査・測量・設計支援、スキャン/図面統合編集、施工履歴管理、登記簿調査や各種管理例（地籍管理、農地管理、道路台帳管理、法務省地図XML）、境界明確化、森林資源管理等の業務支援ソフトの開発を行ってきました。 システムによる業務支援という本来の目的を充実させるために、ソフトウェア開発だけでなく、入出力データ変換業務やコンサルティング、プレゼンテーションのサポート等の各種サービスも行っております。 近年は写真/レーザー測量による点群データ解析と画像認識技術を使って農業・林業関連の業務も応援しています。
22	一般財団法人 日本地図センター	おかげさまで来年2月で設立50周年を迎えます	一般財団法人日本地図センターは、内外の各種地図、空中写真等を広く収集して体系的に整備保管し、総合的な地図情報サービスを行なうとともに、国土地理院の地図の刊行、地図に関する調査研究等を行うために、1972（昭和47）年に設立され、2022（令和4）年2月に設立50周年を迎えます。現在は、これらの事業に加えて「地図地理検定の実施」「地図展推進協議会事務局として地図展を開催」「夏休み地図教室の実施」などの文化事業を行うとともに、「東京時層地図」「マップメモ」「地図扇子」などの地図に関する商品の販売を通じて、地図に親しみ地図から学ぶことで豊かな社会生活を実現することに寄与しています。

地理空間情報フォーラム

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
23	G空間情報 センター	スマートシティの先へ ～G空間情報の活用による課題解決支援～	G空間情報センターは、様々な主体が様々な目的で整備している地理空間情報（＝G空間情報）の有効活用と流通促進を図ること、また社会課題を解決するアクターの後方支援を行うためのデータ流通支援プラットフォームです。当センターでは、利用者が必要となるG空間情報や関連する情報がワンストップで検索入手できるサービスを提供するほか、研究開発やデータキュレーションなど、イノベーション創出に向けた事業を展開しています。当センターは平成24年3月に政府で閣議決定された地理空間情報活用推進基本計画に基づき設立され、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運用を行っています。
24	一般社団法人 日本測量機器 工業会	拡大する測量機器・システムの活用	日本測量機器工業会は昭和21年4月創立以来、約75年にわたり国内で唯一の測量機器産業の団体として活動が続けてまいりました。関係省庁や関連団体との関係を深め、測量機器工業界の代表機関として、測量機器に関するJIS・ISO・工業会規格の草案作成、その普及促進、基本測量や公共測量に用いる測量機器の校正・検査・検定制度、民間等電子基準点の検定、それを利用したGNSS測量に関する研究などの分野で活動し、産業界並びに国民経済発展に貢献しています。
25	公益社団法人 日本測量協会	日本測量協会の業務紹介	公益社団法人日本測量協会は、昭和24年の測量法の制定と、測量士・測量士補の国家資格の創設を契機に、測量技術の普及発達と会員相互の親和・社会的地位の向上を図ることを目的として、昭和26年に官・学・産各界の有志により測量技術者の会員団体として設立された内閣府認定の公益法人です。 会員相互の親和、社会的地位の向上のための月刊誌『測量』の発行、測量技術に関する図書の出版、測量専門技術者の認定や各種講習会及び地理空間情報フォーラム等の開催などを通じて最新の測量技術を普及する教育等を実施しています。
26	「測量の日」 実行委員会	「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナー	測量法が昭和24年6月3日に公布され、平成元年に制定40周年を記念して、建設省（現国土交通省）が6月3日を「測量の日」としました。 「測量の日」実行委員会（測量・地図関係7団体で構成）を中心に、測量の意義及び重要性について国民の理解と関心を一層高めるとともに、地理空間情報のさらなる利活用の促進を図るため、国土交通省、国土地理院、関係省庁、地方公共団体及び関係団体等の協力を得て、全国各地で関連行事を実施しています。 パネルで「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナーを用意しました。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	出展タイトル	出展概要
27	図書コーナー	関連図書の展示及び販売	図書コーナーでは、関連図書の展示及び販売をいたします。 測量の基礎技術を分かり易く解説した入門書、測量士・測量士補の国家試験問題とその解答を詳しく解説した受験対策図書、測量技術者のための実務書ならびに基本測量の各種作業規程などの関連図書を紹介しております。 昨年、一部改訂された『作業規程の準則』、その準則に対応して作成した『作業規程の準則 基準点測量記載要領』（基準点測量編）と（水準測量編）、さらに『作業規程の準則 解説と運用』（基準点測量編、応用測量編）・（地形測量及び写真測量編・三次元点群測量編）計5冊も展示しております。 是非、図書コーナーにお立ち寄りください。

■ 掲載動画

小間 No.	出展者	動画タイトル	動画概要
1	あっとクリエーション 株式会社	カンタンマップのご紹介	カンタンマップの特長や利用されている業種での事例などを紹介しています。 自治体や点検業務のほか、不動産や物流企業など、民間企業での利用事例もご紹介。
2	株式会社 みるくる	次世代斜めカメラ・システム「UltraCam Osprey」：Next generation UltraCam Osprey 4.1	【UltraCam Osprey】 新世代の航空写真撮影斜めカメラ・システムです。解像度、幾何及び色調精度、フレーム・サイズ及びレート、いずれも三次元都市モデル作成の為に不可欠な機能を持った世界最高峰のカメラ・システムです。
2	株式会社 みるくる	「UltraMap」ワークフローのご紹介：UltraMap 5.0 Webinar - Best Practices	【UltraMap】 撮影画像データから三次元モデル作成までの最も効果的なワークフローを提供するソフトウェアです。三次元モデルの構築のみならず、唯一の全自動DSMオルソフォト作成のワークフローとしても多く利用されています。
4	アジア航測 株式会社	強くてしなやかなニッポンへ～国土強靱化（ナショナル・レジリエンス）、防災・減災のとりくみ～	当社は6機の自社機と4機のチャーター機を運航しています。災害時にはこれらの機材を活用して迅速に災害情報の把握・提供に努めています。本動画では、強くてしなやかなニッポンへ～国土強靱化（ナショナル・レジリエンス）、防災・減災のとりくみ～、に向けた災害時の当社の取り組みについてご紹介します。
4	アジア航測 株式会社	釣りドコ	無料で超高精細なオンラインの海底地形が見られるWebアプリ「釣りドコ」。最新の計測技術で釣りの世界にDX！釣りドコの概要、海底地形の実測、実際の釣り場での使い方まで解説します！
4	アジア航測 株式会社	DenpaPro	効率的な無線基地局設置のための机上検討を可能にするのが、2001年より開発・販売を行ってきた電波伝搬シミュレーションソフトDenpaProです。 プロフェッショナルな仕事をお約束します。
4	アジア航測 株式会社	ロボット点検	アジア航測では、インフラ点検の担い手不足、インフラの老朽化、といった課題への対応策として、ロボット点検の事業に取り組んでおり、国土交通省管理するの橋梁や砂防施設の点検事例についてご紹介します。

地理空間情報フォーラム

■ 掲載動画

小間 No.	出展者	動画タイトル	動画概要
5	ESRIジャパン 株式会社	未来型のスマート (The future of Smart)	GISの力で実現する未来型のスマートな社会や組織を紹介。かつてない量とスピードで流れる位置情報データ、センサーデータ、組織の基幹データなどのビッグデータがGISとの融合により新たな洞察（インサイト）を与え、持続的で競争力のある組織の実現に役立ちます。
7	朝日航洋 株式会社	「GT-8K」～空間情報は、五感を超える～	朝日航洋が長年培ってきた移動計測車両による計測技術と超高精細の8K映像技術を融合させて開発した「GT-8K」のプロモーションビデオです。
7	朝日航洋 株式会社	オープンソースソフトウェアQGISとコンテンツのご紹介	G空間DXにお薦め、誰でも今すぐに自由に使える地理情報システム「QGIS」とコンテンツをG空間初心者にもやさしくご紹介します。
10	株式会社 パスコ	デジタル化のカギを握る最新の空間情報技術	「G空間DX」3つの最新計測技術をご紹介します。 ①ドローン搭載型グリーンレーザースキャナ ②道路空間情報収集の最新技術「Real Dimension」 ③先進光学衛星「ALOS-3」
11	リーグルジャパン 株式会社	RIEGL レーザースキャニングシステム最新情報	レーザースキャナーのパイオニアRIEGL社の航空レーザ、UAVレーザ、MMS、地上型レーザ、各カテゴリにおける最新機種、最新情報をご紹介します。
12	国土交通省	国土交通省 高精度測位社会プロジェクトの紹介	高精度測位社会プロジェクトの概要やこれまで行ってきた本プロジェクトの取り組みについてご紹介します。
13	国際航業 株式会社	国際航業が推進する空間情報コンサルティング事業の紹介	私たちは、国土の姿を正確に測量し正確な地図を作る技術を地理空間情報技術へと発展させ、地方自治体の行政支援分野、社会インフラのASETマネジメント分野や防災・減災分野、さらには民間ビジネスの分野に対して、空間情報技術を駆使した付加価値の高いサービスの提供を行っております。
17	ソフトバンク 株式会社	高精度測位サービス「ichimill」のご紹介	高精度測位サービス「ichimill」のサービス内容・特徴をご紹介します。

■ 掲載動画

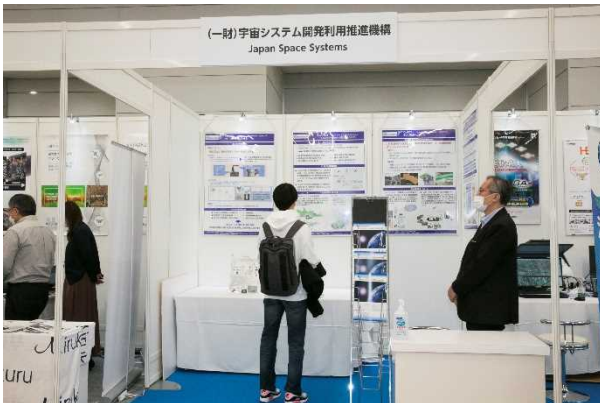
小間 No.	出展者	動画タイトル	動画概要
17	ソフトバンク 株式会社	ドローンがつくる未来の社会～物流ドローンの取り組み～	物流でのドローンの高精度測位サービスの活用事例のご紹介致します。
18	株式会社 デバイス ワークス・北海道技建 株式会社	GISの利活用～現場 PDCAの最適化～	広範囲かつ限られた時間の中で行う必要があった今回の工事で、オルソ画像の図面活用やフリーソフトQGISで取りまとめたデータを、協議から現場まで様々な場面で最大限活用した取組を紹介致します。
19	株式会社 サテライト イメージマーケティング	OneAtlasの紹介	Web上で簡単に使用出来るAPIプラットフォームのOneAtlasと、この中で利用可能な様々なアプリケーションについて動画の中でご紹介しております。
21	株式会社 ビーシステム	3D GIS/点群処理システム 他 主な開発システムの紹介	主な開発製品のご紹介 ScanSurvey Z : 点群処理×3D GIS ScanSurvey VC6 : CAD×GIS -Excel連携、3次元化連携 ScanSurvey Tablet : ScanSurveyをタブレットで CARPHIN V : 可搬ボート型マルチビーム測深機 ARUQ Android : 現地調査/GNSS測量アプリ
22	一般財団法人 日本地図センター	スマートフォン地図アプリ「東京時層地図」	「東京時層地図」は、明治から現代までの時間を軸に東京の変遷を知ることができる地図アプリです。動画で紹介しているiPhone版の他に、iPad版とAndroid版があります。また、京都と奈良、大阪と神戸を収録した「関西時層地図」を近日リリースします。
22	一般財団法人 日本地図センター	地図展2021「神戸から見る日本の国土と海」－水路測量150年記念－	2021年10月28日から11月1日まで神戸市で開催された地図展の概要を紹介します。今年の地図展は地図展推進協議会と国土地理院近畿地方測量部、第五管区海上保安本部が主催で開催されました。
22	一般財団法人 日本地図センター	地図地理検定であなたも地図地理力博士！	地図地理検定は6月と11月に実施します。一般と専門の2つのレベルがあり、全国7会場の他に学校、職場単位で実施できるお得な団体受検があります。高得点で測量CPDも取得できます。

■ 掲載動画

小間 No.	出展者	動画タイトル	動画概要
23	G空間情報センター	デジタルツインの実現に向けたG空間情報センターの取り組み	G空間情報センターは、多様な主体が保有するデータが継続的に活用されるスマートシティの実現と社会課題の解決に向け、ホットスタンバイ型のデータ流通の基盤を提供するとともに、フィジカル空間の情報をリアルタイムに取得、分析する技術の活用を含むさまざまな事業を展開しています。
24	一般社団法人 日本測量機器工業会	日本測量機器工業会	様々な分野で活用され進化を続ける測量・精密測位システム、日本測量機器工業会はこれらを支えるさまざまな活動を推進し、産業界並びに国民経済の発展に貢献してまいります

地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



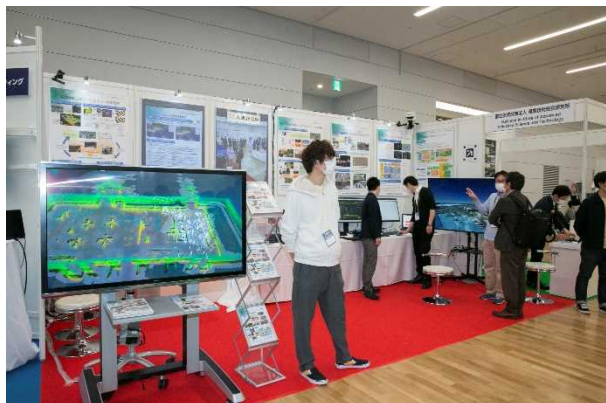
地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



地理空間情報フォーラム

■ オンラインイメージ



地理空間情報フォーラム

■ オンラインイメージ



■ 広報活動

1. 日本測量協会メールマガジン（2021年7月～12月）
2. 月刊「測量」広告（2021年9月号～11月号）
3. G空間EXPO/地理空間情報フォーラム2021 開催記者発表

1. 日本測量協会メールマガジン（7月～12月）

配信対象： 日本測量協会全会員宛（※8月27日分のみ特別(企業)会員のみのみ）

配信日： 2021.7.12 G空間EXPO開催告知
 2021.8.10 G空間EXPO開催告知
 2021.8.27 地理空間情報フォーラム2021出展者募集
 2021.9.13 地理空間情報フォーラム2021出展者募集
 2021.10.11 G空間EXPO開催告知
 2021.11.10 G空間EXPO開催告知
 2021.12.1 G空間EXPO開催告知
 2021.12.13 G空間EXPOオンライン開催中告知

地理空間情報フォーラム

■ 広報活動

2. 月刊「測量」広告（2021年9月号～11月号：各約14,000部）

2021年9～11月号P.2から2ページ



2021年12月号表2対向から4ページ



3. 記者発表

投げ込み先：建設関係業界紙5社

（日刊建設工業新聞社/日刊建設通信新聞社/日刊建設産業新聞社
日本工業経済新聞社/建通新聞社）

実施日：2021年11月22日

4. Geoアクティビティコンテスト

主催：国土交通省 国土地理院

Geoアクティビティコンテスト

■ Geoアクティビティコンテスト概要

国土地理院は地理空間情報の利活用に関する魅力的な「取組」、新しい「アイデア」、独創的な「サービス」などを展示・発表で紹介し、来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成・普及、新しいサービスの創出など地理空間情報の利活用促進を目的として「Geoアクティビティコンテスト」を主催している。本コンテストは平成24（2012）年から開始し、今回で10回目となった。

従来は、G空間EXPO会場で、参加者がプレゼンテーションを行い、審査委員会による審査を行っていた。しかし、今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者が予め作成したプレゼンテーション動画等をもとに、産学官の有識者8名で構成された審査委員会が事前に審査する方法とした。

会場では、応募の中から選ばれた16者が作品を展示するとともに、12月7日にはプレゼンテーション動画の上映と表彰式を実施した。また、プレゼンテーション動画は、表彰式の翌日から12月26日までオンデマンド配信した。

名 称 Geoアクティビティコンテスト

【会場開催】

開催期間 令和3年12月7日（火）～ 8日（水）

（7日：展示・プレゼンテーション動画の上映・表彰式／ 8日：展示）

会 場 東京都立産業貿易センター浜松町館 4階展示室北側

※プレゼンテーション動画の上映、表彰式についてはメインステージを使用

【オンライン開催】

開催期間 令和3年12月1日（水）～26日（日）

（1日～7日：予稿／ 8日～26日：予稿・プレゼンテーション動画）

会 場 GeoアクティビティコンテストWebサイト（<https://g-kukan.jp/>）

プレゼンテーション動画・展示内容

G空間情報を活用したアプリ、システム、機器、端末、サービス、技術、地図成果、研究成果、活用事例等を対象（既存のサービス、製品や、完成途中のものやアイデア段階のものも含む）

審査委員一覧

（順不同、敬称略）

委員長	関根 智子	日本大学 文理学部地理学科教授
委員	石川 初	慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授
	伊藤 香織	東京理科大学 理工学部建築学科教授
	大場 亨	千葉県市川市 広報室次長
	片岡 義明	フリーランスライター
	坂下 哲也	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会常務理事
	三橋 浩志	文部科学省初等中等教育局教科書調査官
	山本 佳世子	電気通信大学大学院 情報理工学研究科教授
事務局		国土交通省 国土地理院企画部地理空間情報企画室

Geoアクティビティコンテスト

■ 会場開催

1. 展示小間及び出展者



出展者一覧

	タイトル	出展者名
A	建設ニュースを地図で発信「e-kensinマップ」	株式会社北海道建設新聞社
B	ベクトルタイル技術を活用した 雨量空間分布及び流域雨量レベル表示	一般財団法人河川情報センター 河川情報研究所 代表 銭 潮潮
C	古地図アプリMaplat、その後の進化	Code for History 大塚 恒平
D	iPhone用アプリ『GEODIVE EXA』 精度2cmの位置情報に、テキスト、画像、動画を紐づけ保存	ハイウェアエクサ株式会社 海田 伸一郎
E	防災アプリ「SHS災害.infoAR+」	宮崎県立佐土原高等学校
F	安心・安全の避難経路はこれだ！ ～GIS解析を利用して～	奈良大学文学部地理学科 高田 雄登・吉位 優作・岡山 和樹 杉山 有希・浜田 優希・野村 遥
G	防災INSIGHT	齋藤 仁志
H	よりリアルな災害体験が可能になった オープンソースARアプリ	大阪市立大学 都市防災教育研究センター 吉田 大介・三田村 宗樹 応用技術株式会社 林 博文・グエンバンティエン
I	はなもく散歩 樹木と電子地図が融合した自然学習アプリの開発	株式会社トンボロ/NPO 法人リトカル
J	GISと推薦システムを用いた 利用者の分散型旅行を促す観光支援システム	電気通信大学大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 加藤 雄大
K	地理×女子 活動成果報告 ～地理×女子が伝える地理の魅力～	地理×女子
L	UTMグリッド入りの英語表記登山地図 —国内地形図を国際基準に—	任意団体「HokkaidoWilds.org」 代表 トムソン・ロバート
M	被災状況を克明に記録する「ビビッとカメラ」の構築	日本大学 経済学部 田中 圭
N	GEO RUN 大根島をバーチャルの世界で駆け抜けろ	Dippies 代表 渡辺 冬樹
O	誰VRナゾトキ地形 ～スマホで簡単！360度立体地形を楽しもう～	株式会社ハッピーアロー 森 順子
P	高精度デジタルツインが実現する 新感覚XRテーマパーク事業	株式会社マップフォー 代表 橋川 雄樹 株式会社シナスタジア 代表 有年 亮博

Geoアクティビティコンテスト

2. 展示の様子

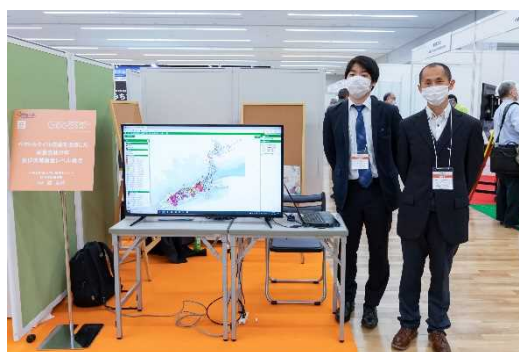
A

タイトル：建設ニュースを地図で発信
「e-kensinマップ」
出展者名：株式会社北海道建設新聞社



B

タイトル：ベクトルタイル技術を活用した雨量
空間分布及び流域雨量レベル表示
出展者名：一般財団法人河川情報センター
河川情報研究所 代表 銭 潮潮



C

タイトル：古地図アプリMaplat、その後の進化
出展者名：Code for History 大塚 恒平



D

タイトル：iPhone 用アプリ 『GEODIVE EXA』
精度2cmの位置情報に、テキスト、
画像、動画を紐づけ保存
出展者名：ハイウェアエクス株式会社 海田 伸一郎



E

タイトル：防災アプリ 「SHS災害.infoAR+」
出展者名：宮崎県立佐土原高等学校



F

タイトル：安心・安全の避難経路はこれだ！
～GIS解析を利用して～
出展者名：奈良大学文学部 地理学科
高田 雄登／吉位 優作／岡山 和樹
杉山 有希／浜田 優希／野村 遥



Geoアクティビティコンテスト

G

タイトル：防災INSIGHT
出展者名：斎藤 仁志



H

タイトル：よりリアルな災害体験が可能になった
オープンソースARアプリ
出展者名：大阪市立大学 都市防災教育研究センター
吉田 大介／三田村 宗
応用技術株式会社
林 博文／グエンバンティエン



I

タイトル：はなもく散歩
樹木と電子地図が融合した自然
学習アプリの開発
出展者名：株式会社トンボロ/NPO法人リトカル



J

タイトル：GISと推薦システムを用いた利用者の
分散型旅行を促す観光支援システム
出展者名：電気通信大学大学院 情報理工学研究科
情報学専攻 加藤 雄大



K

タイトル：地理×女子 活動成果報告
～地理×女子が伝える地理の魅力～
出展者名：地理×女子



L

タイトル：UTMグリッド入りの英語表記登山地図
―国内地形図を国際基準に―
出展者名：任意団体「HokkaidoWilds.org」
代表 トムソン・ロバート



Geoアクティビティコンテスト

M

タイトル：被災状況を克明に記録する「ピ
ピッとカメラ」の構築

出展者名：日本大学 経済学部 田中 圭



N

タイトル：GEO RUN

大根島をバーチャルの世界
で駆け抜ける

出展者名：Dippies 代表 渡辺 冬樹



O

タイトル：VRナゾトキ地形
～スマホで簡単！360度立体地形
を楽しもう～

出展者名：株式会社ハッピーアロー 森 順子



P

タイトル：高精度デジタルツインが実現する新
感覚XRテーマパーク事業

出展者名：株式会社マップフォー 代表 橘川雄樹
株式会社シナスタジア 代表 有年 亮博



3. プレゼンテーション動画の上映



主催者挨拶



上映中の様子

Geoアクティビティコンテスト

4. 表彰式等

出展された作品について、事前に開催された審査委員会にて審査を行い、優秀な作品についてG空間EXPO内で表彰した。

日時：令和3年12月7日（火） 15:00～16:00

場所：メインステージ

Geoアクティビティコンテスト 2021年受賞作品

（敬称略）

最優秀賞	UTMグリッド入りの英語表記登山地図 —国内地形図を国際基準に—	任意団体「HokkaidoWilds.org」 代表 トムソン・ロバート
電子国土賞	ベクトルタイル技術を活用した雨量空間分布及び流域雨量レベル表示	一般財団法人河川情報センター 河川情報研究所 代表 銭 潮潮
測量新技術賞	被災状況を克明に記録する「ピピッとカメラ」の構築	日本大学 経済学部 田中 圭
地域貢献賞	建設ニュースを地図で発信「e-kensinマップ」	（株）北海道建設新聞社
防災減災賞	防災アプリ「SHS災害.infoAR+」	宮崎県立佐土原高等学校
地理教育賞	VRナゾトキ地形 ～スマホで簡単！360度立体地形を楽しもう～	（株）ハッピーアロー 森 順子
奨励賞	古地図アプリMaplat、その後の進化	Code for History 大塚 恒平
	はなもく散歩 樹木と電子地図が融合した自然学習アプリの開発	（株）トンボロ NPO 法人リトカル



主催者挨拶



最優秀賞



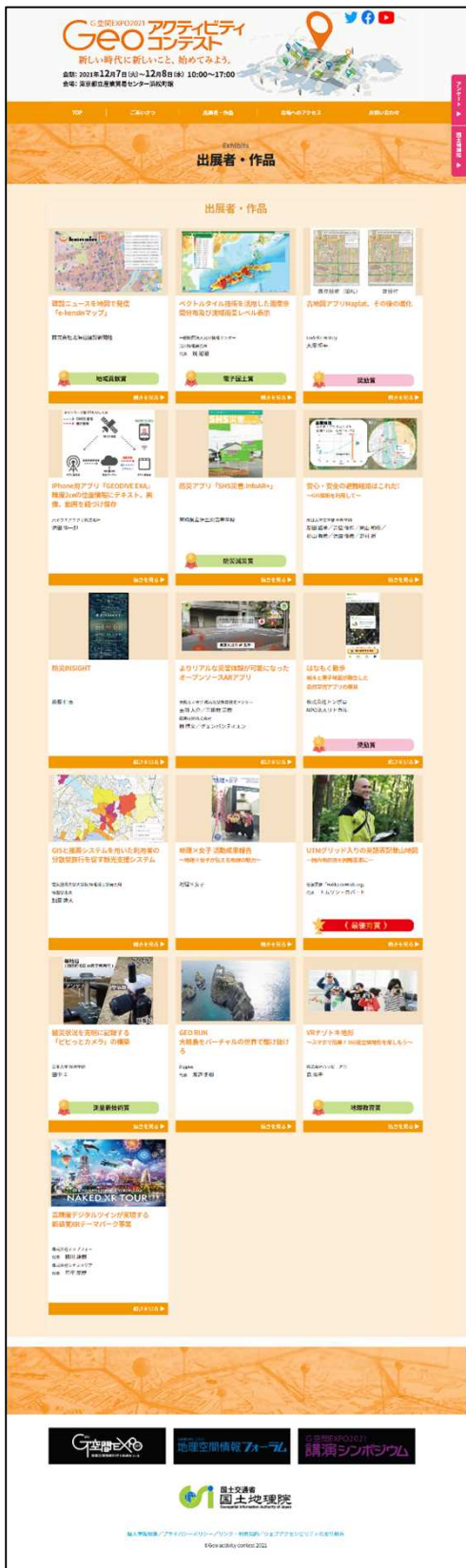
審査委員長の講評



出展者のみなさん

Geoアクティビティコンテスト

出展者・作品ページ

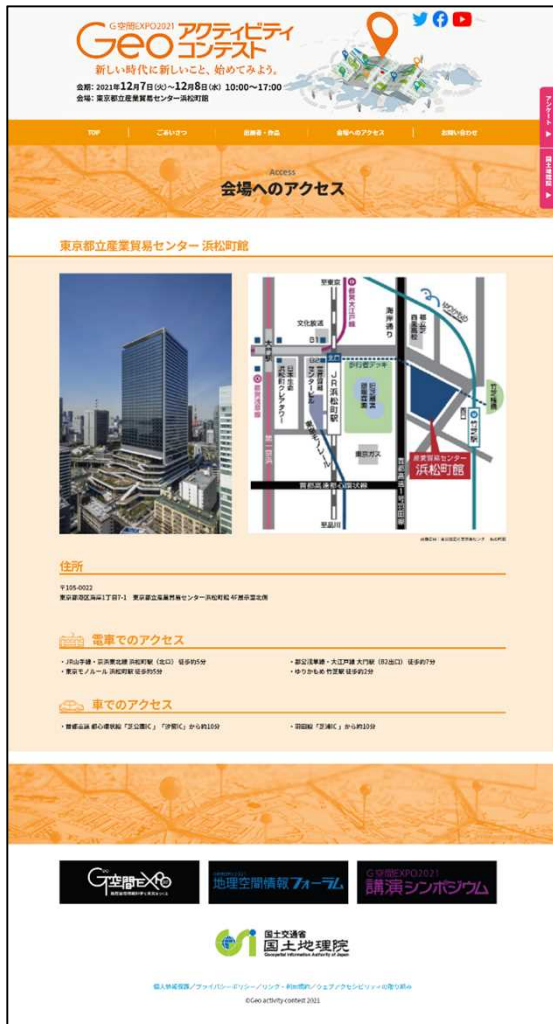


各出展者のページ（例：北海道建設新聞社）



Geoアクティビティコンテスト

会場アクセスページ



お問い合わせページ



Geoアクティビティコンテスト

2. Webページ（スマートフォン版）

TOPページ



Geo activity contest
Geoアクティビティコンテスト

Geoアクティビティコンテストは、
地理空間情報の利活用に関する様々な「取組」「アイデア」
「サービス」などを展示・発表で紹介し、
参加者や来場者との交流を通じて、優良事例の育成・普及、
新しいサービスの創出など地理空間情報の活用促進を目的と
したイベントです。

Geoアクティビティコンテスト表彰式（12月7日開催）



出展者一覧

	タイトル	出展者名
A	建設ニュースを地図で発信「e-kanshinマップ」	株式会社北海道建設新聞社
B	ペクトルタイル技術を活用した雨雲空間分布及び流域雨量レベル表示	一般財団法人河川情報センター 河川情報研究所 代表 嵯 瀬 潤
C	土地版アプリ Magist、その後の進化	Code for History 大塚 和子
D	iPhone用アプリ「GEOOVE EXA」 簡易な位置情報に、テキスト、画像、動画を紐づけ保存	ハイウェイエクス株式会社 高田 伸一 氏
E	防災アプリ「SHS 災害InfoAll」	宮崎県立宮士郎高等学校
F	安心・安全の避難経路はこれだ！ ～GIS解析を活用し～	山梨大学工学部 地理学科 高田 雄介/古谷 俊作/岡山 和雄/杉山 有希/高田 俊希/野村 達

G	防災INSIGHT	豊澤 仁志
H	よりリアルな災害体験が可能な「たのびん」 ARアプリ	大阪府立大学 都市防災教育研究センター 吉田 大介/三田 村 宗憲 応用防災株式会社 林 博文/グレンバンディエン
I	はなもく農事 農家と電子地図が 連携した自然学習 アプリの開発	株式会社トンボロ/NPO法人 リトカル
J	GISと地図システム を用いた 利用者の分散型旅 行を促す観光支援 システム	電気通信大学大学院 情報理工 学研科 情報学専攻 加藤 雄大
K	地理×女子 災害感 知報告 ～地理×女子が伝 える地理の魅力～	地理×女子
L	UTMグリッド入り の基盤地図データ ～国内地図データ 標準化～	任意団体 「Hokkaido Wilds.org」 代表 トムソン・ロバート
M	衛星状況を利用し に記録する「ビビッ とカメラ」の開発	日本大学 経済学部 田中 圭
N	GEO RAIN 大規模なバーチャ ルの世界で駆け抜 けろ	Dipples 代表 渡辺 冬樹
O	VR/AR/3D ～スマホで簡単！ 3D立体地図を楽 しもう～	株式会社ハッピーアロー 森 剛子
P	高精度デジタルツ インが実現する 新感覚XRテーマ パーク事業	株式会社マップフォー代表 堀川 雄樹 株式会社シタスタジオ代表 有年 高翔



G空間EXPO 2021
地理空間情報科学を未来につくる



G空間EXPO 2021
地理空間情報フォーラム



G空間EXPO 2021
講演シンポジウム



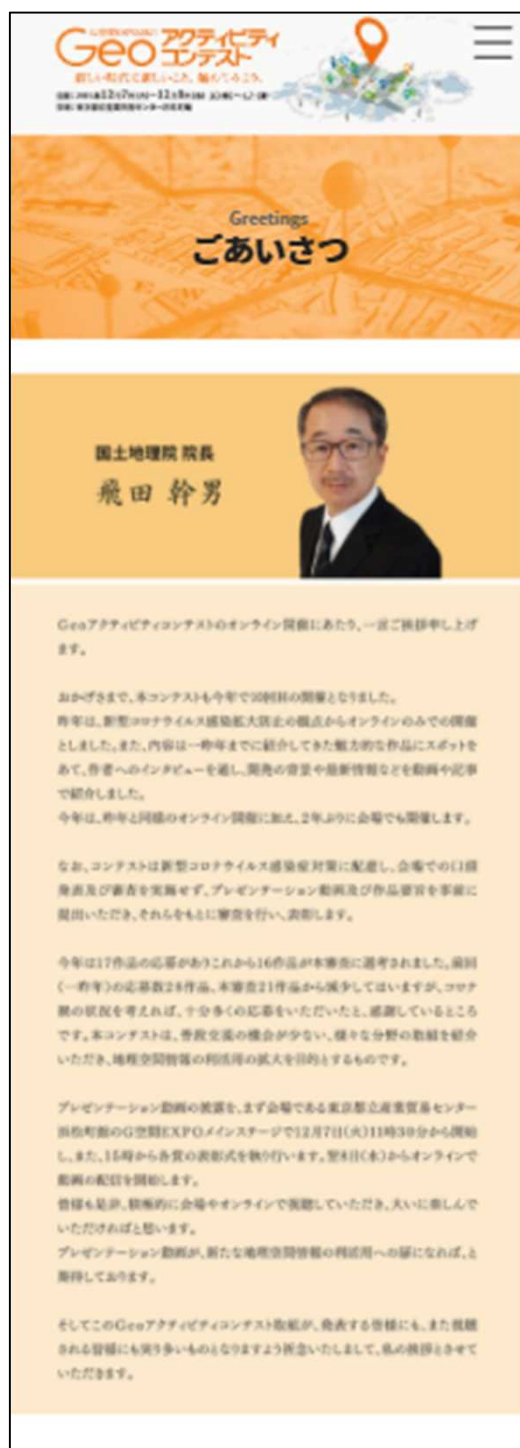
Gri 国土交通省
国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

個人情報保護／プライバシーポリシー／リンク・利用規約／
ウェブアクセシビリティの取り組み

©Geo activity contest 2021

Geoアクティビティコンテスト

ごあいさつページ



The screenshot shows the homepage of the Geo activity contest. At the top, there is a header with the contest logo and navigation links. Below the header, there is a large orange banner with the text "Greetings ごあいさつ". Underneath the banner, there is a portrait of a man in a suit, identified as the President of the Geospatial Information Authority of Japan, Tetsuya Tanaka. To the right of the portrait, there is a text block containing a welcome message and information about the contest. The text is in Japanese and mentions the contest's history and the current year's theme.

Geoアクティビティコンテストのオンライン開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

おかげさまで、本コンテストも今年で30回目を迎えました。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインのみでの開催となりました。また、内容は一昨年までに紹介してきた魅力的な作品にスポットをあて、各々へのインタビューを通じ、開発の背景や最新情報などを動画や記事で紹介しました。

今年は、昨年と同様のオンライン開催に加え、2年ぶりに会場でも開催します。

なお、コンテストは新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、会場での口頭発表及び審査を実施せず、プレゼンテーション動画及び作品審査を事前に提出いただき、それをもとに審査を行い、表彰します。

今年は17作品の応募がありこれより16作品が本審査に選考されました。選別（一昨年）の応募数28作品、本審査21作品から減少していますが、コロナ禍の状況を考えれば、十分多くの応募をいただいたと、感謝しているところです。本コンテストは、普及促進の機会が少ない、様々な分野の動画を紹介いただき、地理空間情報の利活用を拡大を目的とするものです。

プレゼンテーション動画の披露を、まず会場である東京都立産業貿易センター国際会場のG空間EXPOメインステージで12月7日（火）11時30分から開始し、また、15時から各賞の表彰式を行います。翌8日（水）からオンラインで動画の配信を開始します。

皆様も是非、積極的に会場やオンラインで観覧していただき、大いに楽しんでいただければと思います。

プレゼンテーション動画が、新たな地理空間情報の利活用への扉になれば、と期待しております。

そしてこのGeoアクティビティコンテスト動画が、発表する皆様にも、また観覧される皆様にも多くの励みとなるよう考えていたしまして、息の長い取り組みさせていただきます。



This block contains a collage of logos and text related to the Geo activity contest. At the top, there is a large orange banner with the text "G空間EXPO". Below this, there is a black banner with the text "G空間EXPO 2021 地理空間情報フォーラム". Underneath that, there is a black banner with the text "G空間EXPO2021 講演シンポジウム". At the bottom, there is a logo for the Geospatial Information Authority of Japan (GIA) and the text "国土交通省 国土地理院 Geospatial Information Authority of Japan". Below the logo, there is a blue banner with the text "個人情報保護 / プライバシーポリシー / リンク・利用規約 / ウェブアクセシビリティの取り組み". At the very bottom, there is a small text block that reads "©Geo activity contest 2021".

G空間EXPO

G空間EXPO 2021
地理空間情報フォーラム

G空間EXPO2021
講演シンポジウム

国土交通省
国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

個人情報保護 / プライバシーポリシー / リンク・利用規約 /
ウェブアクセシビリティの取り組み

©Geo activity contest 2021

Geoアクティビティコンテスト

出展者・作品ページ

Geo アクティビティ
地理空間情報を用いた、楽しい活動

Exhibits
出展者・作品

出展者・作品

- 新築コミュニティを地図で見る**
Nendoマップ
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- ペトログリフと地形を比較した地図**
空間情報学研究所 地理情報学研究室
代表 長瀬 隆雄
[詳細を見る]
- 大規模な都市計画、その歴史**
Code for History
大塚 孝平
[詳細を見る]
- スマートシティの未来**
スマートシティの未来
代表 長瀬 隆雄
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]

Geo アクティビティ
地理空間情報を用いた、楽しい活動

Exhibits
出展者・作品

- 新築コミュニティを地図で見る**
Nendoマップ
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- ペトログリフと地形を比較した地図**
空間情報学研究所 地理情報学研究室
代表 長瀬 隆雄
[詳細を見る]
- 大規模な都市計画、その歴史**
Code for History
大塚 孝平
[詳細を見る]
- スマートシティの未来**
スマートシティの未来
代表 長瀬 隆雄
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]
- 新築コミュニティの未来**
島根県立大学 建築学部
[詳細を見る]

G空間EXPO
地理空間情報科学と未来を学ぶ

G空間EXPO 2021
地理空間情報フォーラム

G空間EXPO 2021
講演シンポジウム

国土交通省 国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

個人情報保護 / プライバシーポリシー / リンク・利用規約 /
ウェブアクセシビリティの取り組み

©Geo activity contest 2021

Geoアクティビティコンテスト

各出展者のページ（例：北海道建設新聞社）

建設ニュースを地図で発信
「e-kensinマップ」

株式会社北海道建設新聞社

地域貢献賞

ニュースx地図、情報の見える化。地域情報共有、地域活性化、地域課題解決

建設ニュースを地図で発信「e-kensinマップ」

ニュースx地図、情報の見える化。地域情報共有、地域活性化、地域課題解決

建設ニュースを地図で発信「e-kensinマップ」

ニュースx地図、情報の見える化。地域情報共有、地域活性化、地域課題解決

建設ニュースを地図で発信「e-kensinマップ」

ニュースx地図、情報の見える化。地域情報共有、地域活性化、地域課題解決

地理空間情報科学を未来をつくる

G空間EXPO 2021
地理空間情報フォーラム

G空間EXPO2021
講演シンポジウム

国土交通省
国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

個人情報保護 / プライバシーポリシー / リンク・利用規約 /
ウェブアクセシビリティの取り組み

©Geo activity contest 2021

Geoアクティビティコンテスト

会場アクセスページ



The screenshot shows the 'Access' page of the Geo activity contest website. The header features the contest logo and a map. The main heading is '会場へのアクセス' (Access to the Venue). Below this, the venue is identified as '東京都立産業貿易センター 浜松町館' (Tokyo Metropolitan Industrial Trade Center Bunkyo Building). A photograph of the building and a detailed map of the area are provided. The address is listed as 〒105-0022, 東京都港区海岸1丁目7-1, 東京都立産業貿易センター浜松町館 4F 展示室北側. The '住所' (Address) section is followed by '電車でのアクセス' (Access by Train), which lists three routes: JR Yamanote Line to Bunkyo Station (5 min), Keiyo Line to Bunkyo Station (5 min), and Keiyo Line to Bunkyo Station (7 min). The '車でのアクセス' (Access by Car) section lists two routes: from the Bunkyo Interchange (10 min) and from the Bunkyo Interchange (10 min).



The screenshot shows the 'G-space EXPO 2021' section of the website. It features a large orange header with the text 'G空間EXPO' and '地理空間情報科学を未来につくる'. Below this, there are three black boxes with white text: 'G空間EXPO 2021 地理空間情報フォーラム' (G-space EXPO 2021 Geospatial Information Forum) and 'G空間EXPO 2021 講演シンポジウム' (G-space EXPO 2021 Lecture Symposium). The footer includes the logo of the Geospatial Information Authority of Japan (GIA) and the text '国土交通省 国土地理院 Geospatial Information Authority of Japan'. It also contains a link to the '個人情報保護 / プライバシーポリシー / リンク・利用規約 / ウェブアクセシビリティの取り組み' (Personal Information Protection / Privacy Policy / Link / Terms of Use / Web Accessibility Efforts) page and the copyright notice '©Geo activity contest 2021'.

Geoアクティビティコンテスト

お問い合わせページ



お問い合わせ

Contact Us
お問い合わせ

Geoアクティビティコンテスト事務局

国土交通省 国土地理院 企業部地理空間情報企画室内

メールアドレス：gst-g-expo@gxb.mlit.go.jp

※お問い合わせ内容によっては、数日以上のお時間をいただく場合やお答えできない場合がございます。
※回答の時間指定はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。



G空間EXPO
地理空間情報科学と未来をつくる



G空間EXPO 2021
地理空間情報フォーラム



G空間EXPO 2021
講演シンポジウム



国土交通省
国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

[個人情報保護](#) / [プライバシーポリシー](#) / [リンク](#)・利用規約 /
[ウェブアクセシビリティの取り組み](#)

©Geo activity contest 2021

Geoアクティビティコンテスト

■ 広報活動

1. 報道発表

- ・「Geoアクティビティコンテスト」作品募集（2021-05-17）
- ・デジタル改革、G空間DX!! ～G空間EXPO 2021開催～（2021-11-10）

2. 広報誌・雑誌等

- ・国土地理院「測量と地理空間情報関連メールニュース」
第69号（2021-05-19）
第72号（2021-11-17）
- ・国土地理院広報（<https://www.gsi.go.jp/kohokocho/kohoshi.html>）
635号（2021年5月発行）
641号（2021年11月発行）
643号（2022年1月発行）
- ・国土交通省ホームページ「イベント・シンポジウム（令和3年度）」
（<https://www.mlit.go.jp/report/file000013.html>）
- ・月刊「測量」（公益社団法人 日本測量協会 発行）
2021年6月号
2022年2月号
- ・公益社団法人 土木学会ホームページ「土木i」（<https://doboku-i.jp/node>）及び
土木学会Facebook
- ・GIS NEXT（株式会社 ネクストパブリッシング 発行）
78号（2022年1月発行）

3. SNS

TwitterとFacebookにて、適宜つぶやきを投稿。

- ・Geoアクティビティコンテストアカウント：41投稿
- ・G空間EXPOアカウント：11投稿

4. 地図と測量の科学館

- ・常設展示室にパネル展示
- ・ポスター掲示



Geoアクティビティコンテスト
作品募集のチラシ

5. 講演・シンポジウム

主催：一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構

実施概要

■ G空間EXPO2021講演・シンポジウム

- 名 称 G空間EXPO2021 講演・シンポジウム
- 開催期間 (公開期間) 2021年12月1日(水)～12月26日(日)
(現地開催) 2021年12月7日(火) 12月8日(水)
- 会 場 G空間EXPO2021WEBサイト内 及び東京都立産業貿易センター浜松町館会議室
- 対 象 生徒、社会人、専門家
- 料 金 無料
- 主 催 (公社) 日本測量協会
(一社) 全国測量設計業協会連合会
(一社) 日本測量機器工業会
(公財) 日本測量調査技術協会

昨年2020年のG空間EXPOは全面オンラインという全く新しい形態での開催となりましたが、2021年は東京都立産業貿易センター浜松町館会議室での開催とオンラインでのハイブリッド開催という新しい形での開催となりました。今回11団体の参加により、様々な方式、題材による発信がなされました。

従来のG空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の発信に加え、昨年同様コロナ禍におけるG空間情報の活用事例や、ポストコロナを見据えたG空間情報の展開など、この時期ならではの講演が昨年に引き続き行われました。

今回、現地開催団体が2団体にとどまったことを始めとし、コロナ禍における講演シンポジウム開催に関し問題定義がなされたと思います。情報発信の重要性は変わらないながらも、今回の開催形態が正解なのか、新型コロナウイルスの流行が繰り返される中、新しい講演シンポジウムの開催を模索したいと考えております。

プログラム一覧

	主催団体※	講演・シンポジウム名
①	一般財団法人 宇宙システム 開発利用推進機構	J-spacesystems衛星測位シンポジウム 2021
②	国土地理院	第13回地理院地図パートナーネットワーク 会議
③	一般社団法人 日本写真測 量学会、一般社団法人 日本 リモートセンシング学会	「衛星コンステレーション時代の本格到来と 将来展望」
④	一般社団法人 地理情報シス テム学会	G空間DXにつながる自治体の取組み
⑤	測量・地理空間情報 女性の 技術力向上委員会（公益社 団法人日本測量協会）	第5回ソクジョCafeオンライン
⑥	公益社団法人日本地理学会	AIと地理学
⑦	日本地図学会	150年を迎えた我が国の「海の地図」
⑧	東京大学	CSISシンポジウム2021「デジタル空間社会 における建物データの進展と今後」
⑨	G空間情報センター	G 空間情報センター 設立5周年記念シン ポジウム
⑩	地図みらいコンソーシアム	地理総合スタート！～G空間技術で楽しく 学ぶ地理・地形・歴史～
⑪	内閣府宇宙開発戦略推進事 務局／準天頂衛星システム サービス株式会社	みちびき（準天頂衛星システム）ウェビナー ～ みちびき利活用最前線 in G空間 EXPO2021 ～

※申し込み順

■ J-spacesystems衛星測位シンポジウム2021

1. 開催概要

- ・ 日 時 : 令和3年12月8日(水曜日) 開場13:30、講演14:00~16:45
- ・ 会 場 : 東京都立産業貿易センター浜松町館4F 第3会議室
- ・ 主 催 : 一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構(J-spacesystems)
- ・ 共 催 : 一般社団法人日本経済団体連合会
- ・ 後 援 : 内閣府宇宙開発戦略推進事務局

2. 主な講演内容

開会挨拶が一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構の半田 力 専務理事からあり、引き続き、衆議院議員 新藤 義孝 様から来賓挨拶を賜りました。さらに講演の最後に一般社団法人 日本経済団体連合産業技術本部長 吉村 隆 様から閉会挨拶を賜りました。ここでは、主な講演内容を紹介いたします。講演資料等につきましては、下記3のサイトに掲載されておりますので、ご覧ください。

(1) 招待講演：準天頂衛星システムに関する最近の動向

(講演者：沼田 健二 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 参事官)

サービス開始以来主要産業分野において、みちびきの利用拡大が進んでいます。将来のシステム構成、研究開発の方向性及び体制等を「衛星測位に関する取組方針」(令和3年4月22日)としてとりまとめたので、今後これに沿ってみちびきを活用した技術の実用化やサービス展開を図っていく所存です。

(2) 除雪現場省力化の取組“i-Snow”について

(講演者：合田 彰文 国土交通省 北海道開発局 事業振興部 機械課 課長補佐)

除雪現場の生産性・安全性向上のためのプラットフォームが求められており「iSNOW」の名称で取り組んでいます。みちびきの測位精度を活用した実証結果を活かして、さらに実機導入に繋がりたいと考えています。

(3) コイシ地図(四季色立体図)が日本を救う

(講演者：(株)コイシ 小原 文男 代表取締役、仲道 美恵 社長室長、小原 隆弘 社外取締役)

コイシは、大分県大分市を拠点とし、土木工事測量全般と土木支援商品の開発販売を行う会社です。地方ならではの郷土の知恵を入れ地方創生をしていき、土建屋さんにとってやりがりある仕事を創出できるようにしていきたいと考えています。

(4) QZS受信機の紹介と今後の展開予想

(講演者：松岡 繁 J-spacesystems衛星測位事業本部 国内統括)

CLAS受信機は、第1段階23×22×7cm(LEX受信機)から例えばAQLOC-Lightでは9×9×3cmとダウンサイジングが図られており、さらに小型の3×4cmのチップモジュールが2022年3月に製品化されます。

(5) 地球表面から宇宙に拡大する衛星測位の応用

(講演者：三神 泉、J-spacesystems 常務理事)

みちびきの利活用があらゆる分野で広がってきています。一方、諸外国では月のコロニー化や低軌道衛星システム等宇宙空間での応用が始まっており、衛星測位技術は地球上のみならず宇宙空間まで拡大しています。

3. その他関連事項

- ・ J-spacesystems衛星測位シンポジウムのサイトでは、講演資料及び講演動画(YouTube)を公開しています。(同サイトのURL <https://qbic-gnss.org/post/2058>)

実施報告②

■ 第13回地理院地図パートナーネットワーク会議 実施者：国土地理院

■ 会議の概要

地理院地図パートナーネットワーク (<https://maps.gsi.go.jp/pn/>) は、地理空間情報活用のオープンイノベーションを目指す情報共有・意見交換の場であり、地理院タイルをはじめとする地理空間情報の活用推進のため、国土地理院、受託開発者及びツール提供者がこれに参加しています。令和3年10月現在、107の受託開発者と、74のツール提供者が登録されています。

地理院地図パートナーネットワーク会議は、地理院地図パートナーの情報共有・意見交換の場の1つとして平成26年から開催しており、今回で13回目になります。

■ 第13回会議の概要

第13回会議は、G空間EXPO2021のシンポジウムの1つとして、令和3年12月8日（水）に開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症に係る情勢も勘案し、G空間EXPO2021会場及びオンラインを併用して発表・講演及び意見交換を行う方式としました。

午前の部は、「ベクトルタイルに関する最近の動向」をテーマとして実施しました。この中では、ベクトルタイル全体の最近の状況や国連ベクトルタイルツールキット等の紹介、ベクトルタイルのデザインツールであるCharitesの紹介、登山地図でのベクトルタイルの活用事例の紹介がありました。また、国土地理院からは、国土地理院におけるベクトルタイルの取り組み状況について紹介しました。

午後の部は、「防災・地理教育とウェブ地図技術との連携の可能性」をテーマとし、国土地理院が別に主催する「国土地理院の取り組む教育支援の説明会」との合同セッションとして実施しました。この中では、地理院地図を活用した授業の事例紹介、地理院タイルを活用した高校用WebGISコンテンツの紹介、教育にも役立つウェブ地図コンテンツ等の紹介がありました。

当日は、会場及びオンラインの参加者から多くの質問があり、発表者に回答をいただきました。

また、会場とオンラインの同時開催については、「じっくり聞ける時間がある場合は会場参加、仕事の合間に参加したい場合はオンライン参加を選択することができる」等、好意的な感想をいただきました。

■ 動画配信

当日の会議の様子は、YouTubeの地理院地図パートナーネットワーク会議チャンネルから視聴することができます。（地理院地図パートナーネットワークのウェブサイトからアクセスできます。）



G空間EXPO2021会場（会議室）における会議の様子



国土地理院による発表

（執筆者：国土地理院地理空間情報部情報普及課）

実施報告③

■【講演：衛星コンステレーション時代の本格到来と将来展望】

実施者：日本写真測量学会、日本リモートセンシング学会（以上主催）、地理情報システム学会（共催）

開催日時：2021年12月1日～12月26日 オンデマンド配信（測量CPD対象）

<主旨>

宇宙基本計画の改訂、小型衛星の相次ぐ打ち上げなど、2020年は衛星リモートセンシング分野で大きな変化が起きた年であり、国産衛星や商用衛星においても次世代計画が次々と打ち出され、いよいよ衛星コンステレーション時代が本格的に到来したと言えます。

他方で、AIの普及・実装等により、これらのビッグデータから価値ある情報を取り出すデータマイニング技術が進展し、従来の衛星リモートセンシングでは実現できなかった用途や事例が出現しています。

そのため、本シンポジウムでは、商用衛星や小型衛星を含む我が国および世界の地球観測衛星の現状と計画、新たな利用技術と分野に関する講演をオンデマンドで配信し、聴講者の理解を深めるとともに、将来を展望する機会としたいと思います。

<プログラム> -----

- 0 開会のご挨拶／赤松幸生（日本写真測量学会 常務理事）
- 1 「ALOS-3、ALOS-4の現状と将来計画」／田殿武雄（宇宙航空研究開発機構（JAXA））
- 2 「世界の地球観測衛星の動向と将来計画」／葛岡成樹（株式会社サテライト・ビジネス・ネットワーク）
- 3 「商用光学衛星の現状と将来計画」／竹田宏之（Maxar Technologies Inc.）
- 4 「小型光学衛星の現状と将来計画」／八木橋宏之（スカパーJSAT株式会社）
- 5 「AxelGlobeの現状と将来計画」／中西佑介（株式会社アクセルスペース）
- 6 「小型光学衛星の現状と将来計画（CE-SAT）」／丹羽佳人（キヤノン電子株式会社）
- 7 「全天候型地図情報提供サービスICEYE衛星画像のご紹介」／大竹篤史（株式会社NTTデータ）
- 8 「宇宙からの俯瞰データによる「学習する世界」の実現」／新井元行（株式会社Synspective）
- 9 「AIを活用した衛星データ解析の取り組みについて」／金本成生（株式会社スペースシフト）
- 10 「衛星分析の基礎知識とその業界別活用事例」／清水邦夫（Orbital Insight）

<感想>

今回、「衛星コンステレーション時代の本格到来と将来展望」というテーマでシンポジウムを実施しましたが、近年、衛星リモートセンシングを取り巻く環境が大きく変化していることもあり、これまでシンポジウムに参加されていなかった方も含め、多数の方に興味を持って聴講頂けたと思われます。アンケート結果からも、「官民それぞれの最新の衛星リモートセンシング動向を網羅的に知ることができ、大変有意義だった」という意見を多数頂くなど好評であった状況が伺え、シンポジウム全体の内容として良い評価が得られたと考えています。

また、今回はコロナ禍のため、2020年に続いてオンデマンド配信で開催しましたが、関係各位の多大なご協力もあり、何とか形にすることができました。今後もオンデマンド配信での開催を望む意見を多数頂戴しており、引き続きの開催を目指して邁進して参りたいと考えています。

（日本写真測量学会常務理事・対外協力委員会 赤松幸生）

実施報告④

■地理情報システム学会（自治体GIS分科会）

1. G空間DXにつながる自治体の取組み

【オンラインセッション】

現在、自治体DX推進計画の策定が求められています。これまでのICTやAIはどちらかというと業務の効率化や簡素化に重点において導入されてきたところですが、DXはこれまでのICT等による効率化を踏まえて、組織の仕組みそのものをさらに改善しようとするものです。ここで必要なのは、職員の一人ひとりが庁内外にあるデータを活用し、考え、実行することが求められます。これまで技術に頼るという考えから、技術を使う職員が求められるようになっていきます。

そこで、当セッションは、静岡県杉本直也様、兵庫県橋本志信様から3D点群データの整備と災害対応等への利用について、つくば市家中賢作様からデータ利活用人材の育成について話題提供いただきました。

杉本様からは、静岡県が推進する「VIRTUAL SHIZUOKA構想」についてご説明をいただき、3D都市モデルと3D点群データの違いや、オープンデータにすることによって実現した熱海市の土石流災害における官民連携での対策検討などの話題を提供いただきました。

橋本様からは、兵庫県庁内に眠っていた航空レーザー業務の成果品を掘り起こし、さらにそれをCS立体図に加工することで県のグラウンドデータとして整備し、森林業務を中心に精細なデータに基づく業務を推進について話題を提供いただきました。

家中様からは、地方公務員法に基づき全職員を対象にデータ利活用研修を実施していることや、それによる職員意識の変化等を紹介いただきました。

後半は分科会代表浦安市小泉和久の進行で、3名の話題提供者とディスカッションを行いました。

今回の熱海市土砂災害での3D点群データの利用に脚光が集まって、その必要性を庁内外に広く周知できたこと、各自治体のロッカーなどに埋蔵されている3D点群成果をオープンデータとして公開することの意義、これらDXに繋がる進取的な取り組みを進める際の「庁内の壁」の存在、オープンソースソフトウェアの積極的な活用等について貴重な意見交換を行っていただきました。

【会場セッション】

2021年12月8日に東京都立産業貿易センター浜松町館にて、上記のオンライン用に収録した3名の提供話題を題材として、一般財団法人日本デジタル道路地図協会専務理事鎌田高造様と、青山学院大学地球社会共生学部教授古橋大地様をお迎えして、分科会幹事浅野和仁の進行で自治体分科会シンポジウムを開催しました。なお古橋様はリモートで参加いただきました。

鎌田様からは、道路管理業務等における具体的な3D点群データの利用アイデアや、自治体に貴重なデータが埋蔵される原因の一つは「目的外利用」の壁であること、オープンデータとデータ利活用を持続的に進めていくにはリーダー的人材の育成だけではなく、推進施策としての予算確保が必要との意見をいただきました。

古橋様からは、教育現場からの視点として、次世代人材に対するオープン意識の育成の重要性とともに、つくば市のように先行する世代が次世代の壁とならないような、継続的な教育の必要性にも言及いただきました。

どちらのセッションも、自治体GISにおけるデータ利活用に関する多くの示唆をいただくなど、充実した内容となりました。なおこのセッションは、G空間EXPO2021終了後も引き続き下記のGIS学会自治体分科会YouTubeチャンネルにてご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCGKULjSrDToYHpZkX7ufuZw>



■第5回 ソクジョcafeオンライン

公益社団法人 日本測量協会 ソクジョの会

1. はじめに

「測量・地理空間情報女性の技術力向上委員会（通称：ソクジョの会）」は、測量業界に従事する女性に向けて、知識を増やし技術力を高めることができる場づくり、企業の垣根を超えた情報交換や女性同士の親睦を深めることを目的として活動を行っています。今回は、測量業界で働く女性の交流の場を設定することを目的として、「第5回ソクジョcafeオンライン」と題した交流会を開催しました。

2. 当日の様子

2年ぶり第5回目となった今回の交流会は、昨今の社会状況を鑑みて、初のオンライン形式として、遠方や在宅勤務の方にも参加しやすいようにとランチタイムでの開催となりました。オンライン形式ということもあり、全国各地の測量関連業界で働く女性にご参加いただきました。

参加者には事前にWEB交流会URLを配布し、入室時間をご案内しました。会の最初は参加者全員を同じグループに集め、運営事務局からはじめの挨拶を行いました。そのあとは、参加者6～7名とソクジョの会のメンバー1～2名を1つのグループとして、6つのグループに分けて、各々のグループ内で決められた話題を中心に、お昼ご飯を食べながら会話を展開しました。やはり話題の多くを占めたのは、コロナ禍における仕事の変化やテレワークの状況に関するもので、従事する業務内容によって状況が大きく違いがあることを共有する機会となりました。オンラインならではの接続不良などはあったものの、全体として大きなトラブルなく、短い時間ながらも内容の濃いオンライン交流会となりました。

3. アンケート結果

当日、参加者へアンケートを実施しました。「このイベントを知ったきっかけ」としては、「G空間EXPOプログラム」および「ソクジョの会メールマガジン」からといった回答のほかに、委員や同僚・知人等からの案内が多くみられました。交流会の感想としては、「オンラインの難しさ（カメラ、マイク、会話のタイミング等）もあったが、グループ分けされていたことで発言もしやすかった」、「テレワーク等について各社の事情を聞けて良かった」、「webだと遠方でも参加できるのでありがたい」、「ランチタイム開催のため参加しやすかったが時間が短かった」等のご意見や、事前の接続テストのご要望をいただきました。「技術者として働き続けるために行っていること、今後行いたいことはあるか」と尋ねた項目に対しては、「資格取得」、「分野外や新しい分野の講演会の視聴等による自己研鑽」、「わからないことは年齢や内外に関わらず、得意な方に積極的に教えを乞う」、「プライベートで充実した時間を持つ」「健康維持、体力づくり」等の回答をいただきました。次回ソクジョカフェの開催時期や開催場所に対しては、「G空間EXPO2022の平日午後開催」、「平日の昼休み開催」、「閑散期開催」、「地方開催」等のご意見をいただきました。

4. おわりに

ご多忙の中、第5回ソクジョcafeオンラインにご参加いただいた方に改めてお礼申し上げます。参加者アンケートではソクジョの会の活動についてのご意見を伺うことができ、大変参考になりました。心から感謝申し上げます。皆様からいただいたご意見は、今後の委員会運営さらには次回以降のソクジョcafeの開催に役立ててまいります。ソクジョの会では、女性の技術力向上のために、交流会以外の企画も検討しております。新たな企画を行う際は随時情報発信を行いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

実施報告⑥

■ AIと地理学（(公社)日本地理学会）

1. シンポジウムの概要

開催日時：2021年12月23日（木） 13:30～15:30

開催方式：オンライン（Zoom+Youtube同時配信）

Youtubeオンデマンド配信（12月24～26日）

趣旨：近年のAI（人工知能）の発達は目覚ましく、社会の様々な場面や科学研究の多くの分野で使われ始めています。

このAIが地理学分野においても利用できるのか・できないのか等を、実際にAIを用いて地理学的な研究を実施されている研究者の皆様から講演頂くことで、将来の「AIと地理学」を展望しました。



2. 講演プログラム・要旨

- 趣旨説明 中埜 貴元 氏 日本地理学会企画専門委員／国土地理院

趣旨説明においては、本シンポジウムの趣旨と併せて、国土地理院におけるAIを用いた研究事例を紹介するとともに、それを通じて明らかになってきたAIの特性や課題を紹介しました。

- 講演① 金 京淑 氏 産業技術総合研究所 人工知能研究センター 主任研究員

「AIによる3次元地理空間情報の加速化」

大規模な地理空間データの収集・蓄積・管理・利用を容易にするとともに、人工知能技術と融合することで、時間・空間や状況に依存した高度な判断や生活行動を支援する3次元空間データプラットフォーム「PnTML」について紹介して頂きました。

- 講演② 田林 雄 氏 関東学院大学 経営学部 准教授

「地理学・地球科学におけるAI利用の現在」

地理学や地球科学におけるAIを利用した研究の現在を概説して頂きました。前半では、AIにまつわる用語の説明やAIの仕組みを簡単に説明頂き、後半では書誌検索によって得られた地理学・地球科学分野の研究のトレンドを紹介して頂くとともに、研究事例の多い分野から具体的な研究事例を紹介頂きました。

- 講演③ 沼尻 治樹 氏 (公社)日本測量協会 測量技術センター 課長補佐

「AIによる流域水収支モデルのパラメータ最適化と空中写真判読の試み」

人工知能ライブラリを用いた2つの事例として、機械学習による流域水収支モデルのパラメータの自動最適化と転移学習による空中写真判読の試みについてご紹介頂きました。人工知能との出会いも含めて、AIを使う上での問題点と感想についてもご紹介頂きました。

- 講演④ 藤本 悠 氏 芸術文化観光専門職大学 准教授

「人文地理学におけるAIの可能性と課題」

「AI」を冠したサービスやアプリはフィールド調査で役立つものも少なくない一方で、人文地理学研究でAIを用いるには、結果に対する検証手段が未熟であること、教師データとして与える正解データの問題など、解釈に関わる研究には課題も多いことを紹介頂きました。

- 総合討論 司会 一ノ瀬 俊明 氏 日本地理学会企画専門委員／国立環境研究所

コメンテーター 芝田 篤紀 氏 奈良大学 文学部 講師

コメンテーターからコメントを頂き、AIを地理学の中でどう教えていくかについて議論するとともに、参加者からの質問に回答しました。

3. 参加状況

- Zoom+Youtubeライブ会場参加・視聴者数：200名強
- Youtubeオンデマンド配信視聴回数（3日間）：350回

実施報告⑦

■ シンポジウム 海の地図150年の歩みと今後の展望

日時：2021年11月27日，12:30－16:05（リモート開催、G空間Expo 録画を配信）

会場：ゼンリンミュージアム(北九州市小倉北区)

司会・進行：太田弘（日本地図学会常任委員、慶應義塾大学）

共催：第七管区海上保安本部、ゼンリンミュージアム

本シンポジウムは江戸末期の海図から明治・大正・昭和の旧海軍時代に多く作成された海図，そして戦後の海上保安庁による現代の海図の150年の歴史を辿り，これからの海図を展望することを目的に企画された。

明治4年(1871)に兵部省海軍部に水路局が創設されてから本年、令和3年は150年目になる。

シンポジウムでは幕末から現在までを「幕末・明治期」「大正・終戦」「終戦から現在まで」の3期に区分し、さらに「これからの海図」を加えて一気に150年の歴史を概観した。シンポジストはわが国の海図の製作に携わり海図の教育、研究を牽引してきた日本地図学会会員でもある八島邦夫・菊池眞一・今井健三（元海上保安庁海洋情報部）・上田秀敏（日本水路協会）らで、それぞれが報告した。

八島は「幕末・明治期」の水路部の海図作成について、英国海図からの影響など黎明期の海図の歴史を辿り、続いて菊池は「大正・終戦」の旧帝国海軍水路部としての拡充期の海図について、さらに今井は「終戦から現在まで」の海図について、戦後の高度経済成長期の海運立国を支えた海上保安超水路部による海図の進展を報告した。最後に上田は「これからの海図」と題して、世界に先駆けた航海用電子海図(ENC)と電子海図情報表示装置(ECDIS)の開発について報告した。

後半はこれらの続いて、高橋洋子（文部科学省），松本浩文（水産大学校），堀 信行（東京都立大学名誉教授），細川滝馬ダニエル（日本郵船・船長）が引き続きコメントをした。高橋は海図「日本及近海」を取り上げて、教材としての海図の利用などについて述べ、松本は、「海図情報と航行安全」について、海上交通と陸上交通の違い、ENCとECDISとの現場の利用状況や海図は目に見えない水面下の情報が有効などを指摘した。堀はサンゴ礁の地形研究の立場から世界の海図を多く利用したことを紹介した。また、細川は乗船中に世界の主な港に寄港し、パナマ運河、マゼラン海峡も通峡経験があり、その中での電子海図の利用について、マラッカ海峡の通峡を事例などを報告した。他にも「私と海の地図」と題して海事関係者、海図愛好家の長尾卓治（元商船三井・につぼん丸船長），中濱理絵（NYK Business Systems）など海事関係者からコメントを寄せられた。

最後に日本地図学会会長の熊木洋太から海図は一つの大きな目標があること、また、今後はさらに広い観点から使われるかが課題だとまとめた。第七管区の野口課長からは今後の海図の幅広い利活用を願って、参加した教員らへの情報提供の方法を説明した。他にも参加した大学生からは明治期に“Hydrography”が「水路」に訳され経緯について、なぜ当時「水路」という用語が採用されたのかなどの幅広い質問も出て和やかな内に無事終了した。

本シンポジウムは、海図製作、海図を利用する各分野からの報告、また議論があり、誠に貴重な成果を多く得ることができたと思われる。G空間時代の海洋情報と地図の役割を再認識できた。最後に企画、運営、報告を担当された皆様に心から感謝の意を表したい。（太田 弘 記）



実施報告⑧

■ CSISシンポジウム2021「デジタル空間社会における建物データの進展と今後」

1. 実施報告

主催

東京大学空間情報科学研究センター

共催

東京大学デジタル空間社会連携研究機構、東京大学生産技術研究所デジタルスマートシティニシアティブ社会連携研究部門、国立研究開発法人防災科学技術研究所、土木学会土木情報学委員会、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会

報告

CSISシンポジウム2021「デジタル空間社会における建物データの進展と今後」は、二部構成により実施されました。近年「デジタルツイン」などの用語に代表されるように、都市の基盤データと物理空間に設置されている設備や機器の稼働状況、環境センサなどリアルタイムで収集されたデータを融合し、これらを仮想空間上にまるごと複製・展開することで、現実空間で実施するには困難な大規模なシミュレーションや将来予測が技術的に可能になりつつあり、防災等への活用が期待されます。特に建物データに関しては、スケールの異なる建物データを都市モデルとして様々なシミュレーションモデルに入力して行うためにデータの標準化仕様を設計し、シミュレーション結果を活用した、例えば、防災等の施策の合意形成を社会全体で分かりやすく正しく進めるために参考となる情報を分かりやすく地図上に可視化し発信することが大切です。そのような問題意識に立ち、シンポジウムでは、建物データに焦点をおいた研究の取組に触れながら、今後の展開のあり方を考え積極的な議論が交わされました。

第一部「建物データの作りかた、つなぎかた」では基調講演として国土交通省 内山 裕弥氏より「国土交通省におけるプラトーの取組」についてご紹介がありました。また、(株)Geolonia代表取締役CEO 宮内 隆行氏より「スタートアップによる不動産共通IDの取組」についてのご紹介があり、その他データ標準化及びデータのつなぎ方についてのご講演がありました。第二部「建物データの使いかた～設計やシミュレーションの立場から」では、防災科学技術研究所、理化学研究所及び東京大学の研究者側からスケールの異なるシミュレーションと合意形成についてのご講演がありました。最後に防災科学技術研究所 梶原 浩一氏より閉会挨拶を頂きました。

本イベントに先立ちまして、地図上で各地域のさまざまな特徴が一目でわかる「強レジリエント化に向けた都市CPS (β版)」 (<https://city-cps.net/>) を公開しました (図)。都市の強レジリエント化を目的として、スケールの異なるデータ (建物データやBIMデータなど) を都市モデルとしてシミュレーションモデルに入力し、建物構造物の耐震性評価を行うために、データの標準化仕様を設計しました。また各種データのシミュレーション結果を分かりやすく地図上に可視化し発信するための都市CPS (Cyber physical system) を開発しました。この都市CPSを活用することで、将来的には、都市の強レジリエント化に向けた防災などの施策の合意形成を社会全体で分かりやすく正しく進める活動が促進されると期待されます。

オンライン開催にも関わらず417名のご参加を頂きました。多くの皆様にご参加頂きありがとうございました。なおシンポジウムの内容はYoutubeにおいて配信しております (<https://www.youtube.com/watch?v=al-D9lfVth4>)。



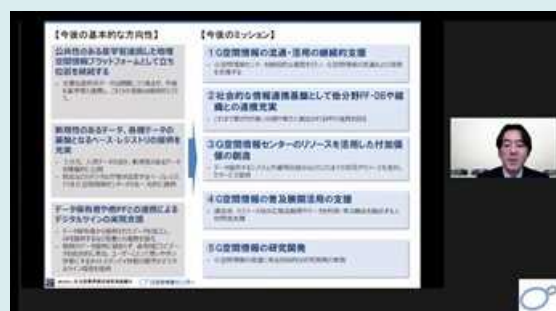
図『強レジリエント化に向けた都市CPS (β版)』の異種シミュレーション比較サイト (益城)

■【G空間情報センター 5周年記念シンポジウム】

実施者：G空間情報センター

12月7日（火）G空間EXPO2021におきまして、G空間情報センター5周年記念シンポジウムを開催いたしました。昨年度に引き続きオンライン開催となりましたが、240名を超える多くの皆様にご視聴いただきました。誠にありがとうございました。

●G空間情報センターのこれまでの歩み



副センター長の井上より、設立から現在までのG空間情報センターの取り組みについてご紹介しました。また、今後のG空間情報センターの方向性として、産学官連携のためのプラットフォームとしての役割を維持するだけでなく、各種データのベース・レジストリの提供やデジタルツインの実現支援を行うための今後のミッションについてご説明いたしました。

●G空間情報の最新動向

G空間情報センター及びAIGIDが関わる下記5つのプロジェクトについて、各担当者より最新の動向をご発表いただきました。

- ・国土交通データプラットフォーム
- ・PLATEAU
- ・My City Construction
- ・My City Report
- ・デジタルシティサービス



●パネルディスカッション：G空間情報活用に向けた産官学民の連携の在り方 ～G空間情報からみた移動データ/災害情報～



名古屋大学河口様、静岡県杉本様、デジタル庁東様、日本情報経済社会推進協会松下様にご登壇いただき、G空間情報センターの井上、瀬戸も交え、「移動データ」「災害情報」のテーマで、今後のデータ活用の方向性やデータハブとしてのG空間情報センターの果たす役割について、産官学民のそれぞれの立場からお話をいただきました。

今回、センターの設立5周年の節目にあたり、衆議院議員 自民党G空間社会実装委員長 新藤義孝さま始め、多くの皆様よりご祝辞をいただきました。改めて御礼申し上げます。

下記URLにて録画動画を公開しております。未視聴の方はどうぞご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=mxBUQoXX3I4>

G空間情報センター：<https://www.geospatial.jp/>

文責：坂田理子（G空間情報センター）

実施報告⑩

■ G空間Expo2021「講演・シンポジウム」企画

「地理総合スタート！～G空間技術で楽しく学ぶ地理・地形・歴史～」

主催 地図みらいコンソーシアム

1. 開催趣旨

2019年に、39年ぶりの日本開催となったICC2019国際地図学会議に向けて産学官連携グループ「地図みらいコンソーシアム」が発足し、G空間EXPO2020に於いて「日本の地図過去・現在・未来」と題し、講演シンポジウムHP内にて様々なプログラムを発表し多くの方に視聴いただいた。

G空間Expo2021におきましても引き続き「地理総合スタート！～G空間技術で楽しく学ぶ地理・地形・歴史～」【地理総合】【地理探究】向け【地図発展の歩み、未来への可能性】と題して複数のプログラムを発表。

2. 公開プログラム概要

G空間Expo2021ホームページ上にて、以下のプログラムを公開（公開日 12/6～12/26）

テーマ1 「地図と地理空間情報でとらえる国土」

1-1「地理教材共有サイト」 ICTでシェアする地理教材研究会（後援 全国地理教育研究会）

1-2「授業で使える当館所蔵地図」 岐阜県図書館

1-3 日本の歴史GISプラットフォームの構築 立命館大学

1-4 ゼンリンミュージアムの常設展示と、新たに存在が確認された伊能小図（實測輿地図）の紹介 ゼンリンミュージアム（協力：日本地図学会）

1-5 長久保赤水「赤水図」の新たな地理教育への活用 高萩市、長久保赤水顕彰会（日本地図学会・企画協力）

テーマ2 「命を守る防災教育と地理空間情報」

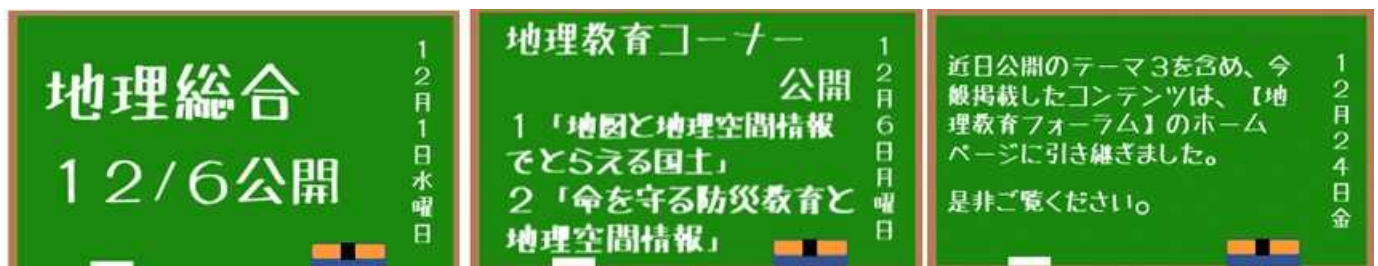
2-1 オンライン講座：学区の地図を活用した災害リスクの理解 東北大学災害科学国際研究所 防災教育国際協働センター

2-2 大分県の防災・減災に役立つ情報を発信！「おおいた減災スクラム」NHK大分放送局 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター

2-3 位置情報×防災 位置情報データは防災を変えることができるか（株）ブログウォッチャー（日本地理学会地理学のアウトリーチ研究グループ・企画協力）

後日掲載予定だった、テーマ3「白熱地歴探究！地形で読み解く関東地方、首都圏の発展」については地理教育フォーラムのHPに引き継いだ

【公開時サムネイル画像】



作成 地図みらいコンソーシアム事務局 上村 英央（一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構）

実施報告⑪

■みちびき(準天頂衛星システム)ウェビナー

～みちびき利活用最前線 in G空間EXPO 2021～

実施者：内閣府宇宙開発戦略推進事務局

G空間EXPOでの開催が9回目となる「みちびき」の講演会は、昨年に引き続き、オンラインウェビナーでの開催となりました。今回のウェビナーでは、みちびきの認知度向上、新たなユースケースの創出などに取り組む活動である「みちびきコミュニティ」にフォーカスをあて、この活動における多彩な取り組みの中から、地下埋設物の可視化や、ドローン、ARを活用した体験コンテンツ、視覚障がい者向けナビゲーションなどについて発表すると共に、活動を牽引するエバンジェリストによる「高精度な位置と時間が作る未来」と題したパネルディスカッションを行い、みちびきを活用した未来の社会イメージについて活発な議論を展開しました。



開会挨拶

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 参事官／準天頂衛星システム戦略室長 上野麻子

講演

「高精度3DデータとxR技術を用いた地下埋設物の可視化」

株式会社マイスター 常務取締役 野澤宇一郎 氏

「みちびきで広がる自律移動体（ドローン）の可能性」

ドローン・ジャパン株式会社 取締役会長 春原久徳 氏

「みちびきを利用した地域とクリエイターをマッチングさせるAR観光マッチングアプリ」

株式会社amulapo 代表取締役 田中克明 氏

「人の豊かさを“歩く”で創る視覚障がい者向けナビゲーションシステム「あしらせ」」

株式会社Ashirase 代表取締役 CEO 千野歩氏

パネルディスカッション

『高精度な位置と時間が作る未来 ～6cmの位置と10億分の1秒が変えるデジタル社会の姿～』

モデレータ：一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）常務理事 坂下哲也 氏

パネリスト：佐藤将史 氏、嶋田敬一郎 氏、畑田康二郎 氏

6. 広報

G空間EXPO運営協議会

広報（タイトルロゴ、キービジュアル）

■タイトルロゴ（再掲）



■キービジュアル（再掲）



広報（ポスター、フライヤー(チラシ)の制作、配布）

■ポスター、フライヤー(チラシ)の制作、配布

ロゴ(「G空間EXPO」)、キービジュアル、テーマ、期間・場所等を配したポスター及びフライヤー(チラシ)を制作、適宜配布を行った。

フライヤーは、表はポスターと共通、裏に、実地開催の場合各ゾーンの紹介、会場アクセスマップ、フロアマップを掲載した。

・ポスター
※A2判



・フライヤー
※A4判



広報（プログラム）

■プログラム制作、配布

実地会場で来場者に配布した。※A3判を二ツ折。

（表紙・裏表紙）



（中頁）



広報（国土交通省における報道発表）

■ 国土交通省における報道発表

国土交通省においては、不動産・建設経済局及び国土地理院の連名により、報道発表を行った。

発表日時：11月10日14時 ＊不動産・建設経済局、国土地理院同時に資料配布

配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会
及び筑波研究学園都市記者会

内容：報道発表資料（下図）、添付資料、参考資料（以上次ページ）

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会
令和3年11月10日（水）14時同時配付

令和3年11月10日
不動産・建設経済局
国土地理院

デジタル改革、G空間DX!! ～G空間 EXPO 2021 開催～

12月7日～8日、「G空間EXPO 2021」を東京都立産業貿易センター浜松町館で開催します（入場無料）。新型コロナウイルス感染症対策のため、入場は事前登録制です。本日からG空間EXPO公式サイト（<https://www.g-expo.jp/>）において事前登録を開始します。

「G空間EXPO」は、G空間情報[※]の活用推進及び普及啓発を目的に2010年から開催しており、今回が11回目の開催となります。今年は「デジタル改革、G空間DX!!」をテーマとして、産学官による最新のG空間情報技術に関する展示・講演等を行います。

※G空間情報（地理空間情報）とは、地図・衛星測位等から得られる「いつ・どこ」といった時間・位置の情報です。

■ 開催概要

名 称：G空間 EXPO 2021 デジタル改革、G空間DX!!

【実 地 開 催】令和3年12月7日（火）～8日（水）10:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 4階〔東京都港区海岸1-7-1〕

【オンライン開催】令和3年12月1日（水）～26日（日）※実地開催と一部内容は異なります。

G空間 EXPO 公式サイト <https://www.g-expo.jp/>

主 催：G空間 EXPO 運営協議会

■ オープニングセレモニー

日 時：令和3年12月7日（火）10:00～10:20

会 場：G空間 EXPO 2021 会場 メインステージ

（東京都立産業貿易センター浜松町館 4階）

出席者：国土交通副大臣（予定）、産・学・官の代表者

※取材・カメラ撮影可能です。取材を希望される方は、
12月3日（金）17時までに、「[取材申込書](#)」にてお申し込みください。



（2019 オープニングセレモニー）

添付資料「G空間 EXPO 2021」における国土交通省主催イベントの概要について
参考資料「G空間 EXPO 2021」チラシ

（問合せ先）

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2

不動産・建設経済局情報活用推進課

企画専門官 新保 光代（内線 29-833）

専門調査官 板倉 勝孝（内線 29-863）

主査 加藤 至剛（内線 29-834）

TEL 03-5253-8111（代表）TEL 03-5253-8353（直通）

FAX 03-5253-1569

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

国土地理院企画部

地理空間情報政策調整官

南雲 吉久

TEL 029-864-6445（直通）

国土地理院企画部地理空間情報企画室

室長補佐 津久井 ゆり子

TEL 029-864-6257（直通）

FAX 029-864-1658

広報（国土交通省における報道発表）

添付資料「『G空間EXPO2021』における国土交通省主催のイベントの概要について」

【添付資料】	【添付資料】
「G空間 EXPO 2021」における 国土交通省主催イベントの概要について 「G空間 EXPO 2021」は、令和3年12月7日（火）～8日（水）、東京都立産業貿易センター浜松町館で開催されます（オンライン開催：12月1日（水）～26日（日））。 国土交通省（不動産・建設経済局、国土地理院）は、以下のとおり各種イベントを実施します。 なお、「G空間 EXPO 2021」で実施するイベントは全て無料でご覧いただけますが、実地開催のイベントについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入場前に【事前登録】を行っていただく必要がありますので、ご理解とご協力をお願いします。 1. G空間 EXPO メッセージゾーン G空間 EXPO の導入部として、G空間 EXPO で見てほしいこと、感じてほしいことをお伝えいたします。 (1) 展 示 「G空間社会って何？」そんな疑問に答えるため、身近な場面をとりあげてG空間情報をご紹介しますパネルを展示します。 (2) メインステージプログラム オープニングセレモニーを皮切りに、G空間情報に関する独創的なアイデア・最先端の技術・サービス等を紹介するイベント等、7日間を通して多彩なプログラムを予定しています。 2. Geo アクティビティコンテスト（主催：国土地理院） 地理空間情報の利活用に関する様々な「取組」、「アイデア」、「サービス」等を対象として公募・選考された出展者による展示を行います。 近年、被害が甚大化している自然災害への対応に地理空間情報を活用している事例や、高等学校における「地理総合」必修化により注目を集める地理教育への取組などを展示します。 今年は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、出展者が作成された発表動画を事前に審査し、会場で優秀者を表彰します。 【展示】 日時：12月7日（火）～8日（水）10:00～17:00 会場：4階 Geo アクティビティコンテストゾーン 【発表動画放映】 日時：12月7日（火）11:30～ 会場：4階 メインステージ ※12月8日（水）からは、オンライン会場でもご覧いただけます。 【表彰式】 日時：12月7日（火）15:00～ 会場：4階 メインステージ 【問合せ先】国土地理院企画部地理空間情報企画室 Tel：029-864-1535（直通）	3. 地理空間情報フォーラム国土交通省関連ブース 「地理空間情報フォーラム」に、国土交通省から以下のとおり出展します。 【実 地 開 催】12月7日（火）～8日（水）10:00～17:00 【オンライン開催】12月1日（水）～26日（日） (1) 不動産・建設経済局施策展示 不動産・建設経済局の地理空間情報普及の取組として「高精度測位社会プロジェクト」を紹介する展示を行います。本プロジェクトでは、屋内電子地図や屋内測位環境等の空間情報インフラの整備、それらを用いた実証実験等を行ってきました。本展示では、これまでの取組みや実証実験等を通して得られた成果について紹介します。 【会場】4階 地理空間情報フォーラムゾーン ブース 12 【問合せ先】不動産・建設経済局情報活用推進課 Tel：03-5253-8353（直通） (2) 国土地理院施策展示 「防災・減災における国土地理院の取組」をパネルや映像、模型展示で紹介いたします。頻発する自然災害から国民の生命・財産や国土を守るため、測量・地図分野の技術を活かした災害対応について、国土地理院の取組をわかりやすく紹介します。 【会場】4階 地理空間情報フォーラムゾーン ブース 16 【問合せ先】国土地理院企画部地理空間情報企画室 Tel：029-864-6257（直通） 4. 講演・シンポジウム 第13回地理院地図パートナーネットワーク会議 国土地理院が提供するウェブ地図「地理院地図」や「地理院タイル」について情報共有・意見交換を行うプログラムです。 午前の部では、ベクトルタイルに関する最近の動向についての講演及び意見交換を行います。また、午後の部では、防災・地理教育とウェブ地図技術との連携の可能性についての講演及び意見交換を行います。 会議の模様はインターネットで全国にライブ配信します。その他、会議の詳細は、ウェブサイト（https://maps.gsi.go.jp/pn/）をご覧ください。 【開催日時】12月8日（水）10:00～15:00（休憩 12:00～13:00） 【会場】4階 第1会議室 【問合せ先】国土地理院地理空間情報部情報普及課 Tel：029-864-6643（直通）

参考資料 フライヤー



参考資料 取材申込書

国土交通省不動産・建設経済局情報活用推進課まで Mail: hug-expo@gsb.mlit.go.jp
※「★」を「@」に置き換えてください。
FAX: 03-5253-1569

○取材要領

1. 取材の申し込みについて
取材を希望される方は、以下の「取材申込書」によりメールまたはファックスにてお申し込みください。

申込期限: 令和3年12月3日（金）17時

2. 取材にあたっての留意事項

(1) 取材中は、自社胸章を着用し、現地担当者の指示に従ってください。

(2) 12月7日のオープニングセレモニーを取材される場合は、当日9時45分までに東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区浜松町1-7-1）4F「G空間EXPO」受付までお越しください。

(3) 都合により、オープニングセレモニー開始時刻を変更する場合があります。

取材申込書

●会社名・部署名 _____

●取材者の役職・氏名（末端される全員の役職・氏名を記載してください） _____

①代表者 _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

●テレビカメラの持ち込みの有無（該当する方に○をつけてください） _____

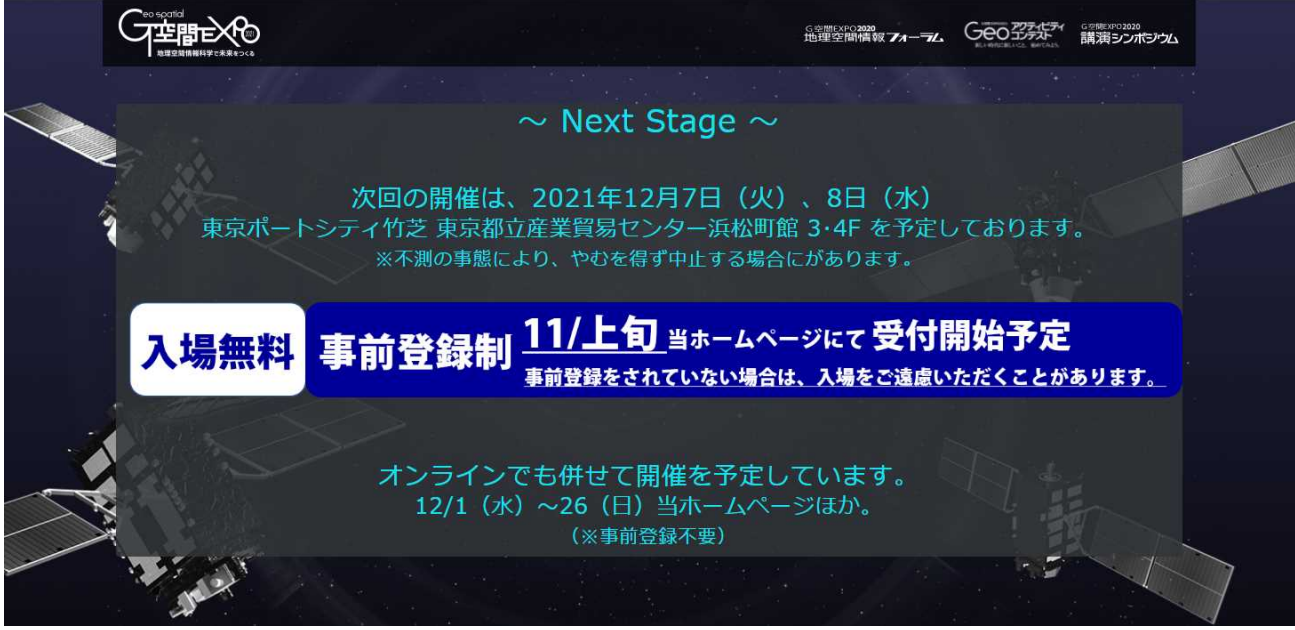
有 ・ 無

●連絡先（代表者の電話番号・メールアドレス） _____

広報（公式Webサイト）

■公式Webサイト（URL= <http://www.g-expo.jp/>）

■来場事前登録 受付期間前（7月～11月10日）



～ Next Stage ～

次回の開催は、2021年12月7日（火）、8日（水）
東京ポートシティ竹芝 東京都立産業貿易センター浜松町館 3・4F を予定しております。
※不測の事態により、やむを得ず中止する場合があります。

入場無料 事前登録制 11/月上旬 当ホームページにて 受付開始予定
事前登録をされていない場合は、入場をご遠慮いただくことがあります。

オンラインでも併せて開催を予定しています。
12/1（水）～26（日）当ホームページほか。
（※事前登録不要）

■来場事前登録 受付期間中（11月10日～12月8日）



G空間EXPO2021

○リアル開催
2021年12月7日(火)～8日(水)
会場：東京都立産業貿易センター浜松町館4F
【※入場無料・事前登録制】

来場事前登録 入場無料はこちら

○オンライン開催
2021年12月1日(水)～12月26日(日)
【事前登録不要】

G空間EXPOは、G空間情報の活用推進・普及啓発のため、2010年から開催しています。今回は「デジタル改革、G空間DX!!」をテーマに、産学官による最新のG空間情報技術に関する展示・講演などを行います。リアル、オンライン、それぞれのコンテンツをご覧ください。ぜひ、新しいG空間の扉を開いてみてください。

※不測の事態により、やむを得ず中止する場合があります。

広報（公式Webサイト）

■開催期間中 図は12月1日（オンライン開幕）～12月8日（実地2日目）のもの。

The banner features the G空間EXPO2021 logo with the tagline 'Geo spatial 地理空間情報科学で未来をつくる' and 'デジタル改革、G空間DX!!'. It also includes icons for the '地理空間情報フォーラム', 'Geo アクティビティコンテスト', and '講演シンポジウム'.

G空間EXPO2021

○リアル開催
2021年12月7日(火)～8日(水) 10:00～17:00
会場：東京都立産業貿易センター浜松町館4F

【※入場無料・事前登録制】

来場事前登録 入場無料 はこちら

プログラムはこちら
「G空間DXにつながる自治体の取組み」
(12/8メインステージにて)

会場アクセスマップ フロアマップ

*不測の事態により、やむを得ず中止する場合があります。

○オンライン開催中【事前登録不要】
2021年12月1日(水)10:00～26日(日)17:00

オンラインコンテンツはこちら

地理空間情報フォーラム Geo アクティビティコンテスト 講演シンポジウム

G空間EXPOは、G空間情報の活用推進・普及啓発のため、2010年から開催しています。
今回は「デジタル改革、G空間DX!!」をテーマに、産学官による最新のG空間情報技術に関する展示・講演などを行います。
リアル、オンライン、それぞれのコンテンツをご覧ください。ぜひ、新しいG空間の扉を開いてみてください。

【実地開催関係】

- 実地開催期間・会場
- 来場事前登録バナー
- 「プログラムはこちら」(☞プログラムはP.69)
- メインステージイベント「G空間DXにつながる自治体の取組み」
- 「会場アクセスマップ」「フロアマップ」

(会場アクセスマップ)

【オンライン開催関係】

- オンライン開催期間
- 「オンラインコンテンツはこちら」

The map shows the location of the venue, Tokyo Metropolitan Industrial Trade Center Bunkyo Branch (4F Exhibition Hall North), and provides detailed access information.

会場アクセス

東京都立産業貿易センター
〒112-8555 東京都港区新港1-7-1
TEL: 03-3434-4242 (東京ポートシティ竹芝オフィスタワー)

電車でのアクセス：
・新交通ゆりかもめ 竹芝駅 徒歩約2分
・JR山手線・京浜東北線 浜松町駅(北口) 徒歩約5分
・東横線 新大塚駅 徒歩約5分
・有楽町線 大塚駅 徒歩約7分

車でのアクセス：
・首都高速 環状線「芝公園IC」「汐留IC」から約10分
・羽田線「芝浦IC」から約10分

広報（公式Webサイト）

■ 実地開催終了 12月9日～



The banner for the real event of G空間EXPO2021 features a central image of a cityscape with flying cars and drones. The text is in Japanese and includes the event title, dates, and a message of thanks for attendees.

Geo spatial G空間EXPO2021
地理空間情報科学で未来をつくる

Geo空間EXPO2021
地理空間情報
フォーラム

Geo空間EXPO2021
Geo
アクティビティ
コンテスト

Geo空間EXPO2021
講演
シンポジウム

G空間EXPO2021
オンライン開催中
2021年12月1日(水)10:00～26日(日)17:00
コンテンツはこちら

リアル開催
2021年12月7日(火)～8日(水) 10:00～17:00
会場：東京都立産業貿易センター浜松町館4F
【※入場無料・事前登録制】

終了しました
来場事前登録 入場無料はこちら

**ご来場いただきました皆さま
ありがとうございました**

※本日の開催により、やむを得ず中止する場合があります。

G空間EXPOは、G空間情報の活用推進・普及啓発のため、2010年から開催しています。
今回は「デジタル改革、G空間DX!!」をテーマに、産学官による最新のG空間情報技術に関する展示・講演などを行います。
リアル、オンライン、それぞれのコンテンツをご覧ください、ぜひ、新しいG空間の扉を開いてみてください。

■ オンライン開催終了 12月27日～



The banner for the online event of G空間EXPO2021 features the same central image of a cityscape with flying cars and drones. The text is in Japanese and includes the event title, dates, and a message of thanks for attendees.

Geo spatial G空間EXPO2021
地理空間情報科学で未来をつくる

Geo空間EXPO2021
地理空間情報
フォーラム

Geo空間EXPO2021
Geo
アクティビティ
コンテスト

Geo空間EXPO2021
講演
シンポジウム

G空間EXPO2021
リアル開催
2021年12月7日(火)～8日(水) 10:00～17:00
会場：東京都立産業貿易センター浜松町館4F
【※入場無料・事前登録制】

終了しました
来場事前登録 入場無料はこちら

**ご来場いただきました皆さま
ありがとうございました**

※本日の開催により、やむを得ず中止する場合があります。

オンライン開催
2021年12月1日(水)10:00～26日(日)17:00

G空間EXPOは、G空間情報の活用推進・普及啓発のため、2010年から開催しています。
今回は「デジタル改革、G空間DX!!」をテーマに、産学官による最新のG空間情報技術に関する展示・講演などを行います。
リアル、オンライン、それぞれのコンテンツをご覧ください、ぜひ、新しいG空間の扉を開いてみてください。

広報（公式SNS）

■ 公式SNS (facebook, Twitter)

1 .facebook



G空間EXPO

2021/11/10 · 🌐

お久しぶりです。G空間EXPO運営事務局です。
本日、G空間EXPOの開催がリリースされました。
12月7～8日、東京都立産業貿易センター浜松町館で
開催します。
皆様のご来場お待ちしております！
ご来場には事前登録が必要です↓
<https://www.g-expo.jp/>

Geo spatial
G空間EXPO 2021
地理空間情報科学で未来をつくる

デジタル改革、G空間DX!!

2021/12/7・8 10:00～17:00
会場 東京都立産業貿易センター浜松町館3・4F (東京ポータルシティ竹芝オフィスタワー)
オンライン 12/10～26 公式WEBサイト www.g-expo.jp

事前登録制 入場無料

観覧料無料のため、入場希望の方は公式ウェブサイトからの事前登録をいただきますよう

事前登録 無料

👍 いいね！

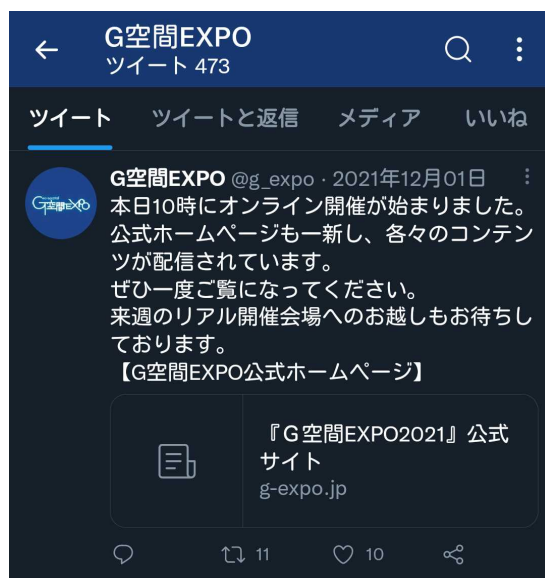
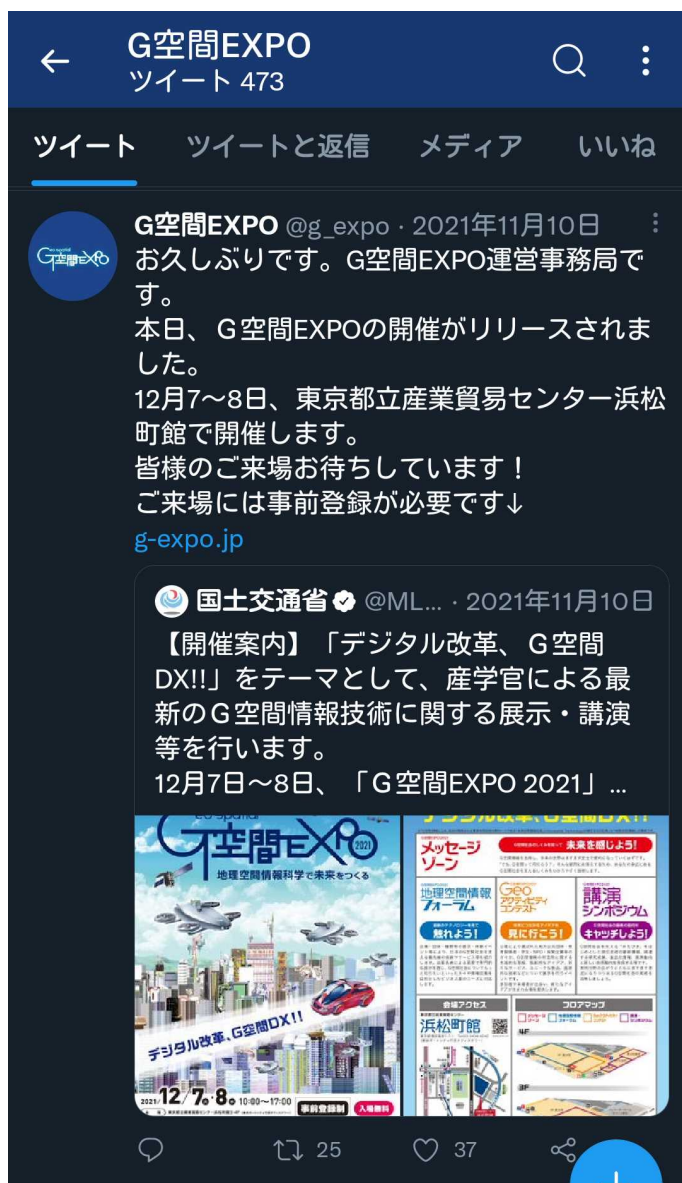
💬 コメント

➦ シェア

👍❤️ 28

広報（公式SNS）

2.Twitter



広報（国土交通省公式Twitter）

■ 国土交通省公式Twitter



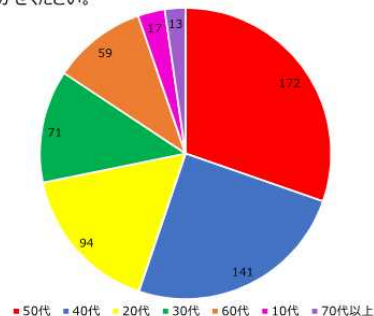
[参考] アンケート結果

[参考]アンケート結果

G空間EXPO2021オンライン開催の部 TOPページアンケート結果
(期間：2021-12-01～2021-12-26／回答数：567)

Q1 あなたの年代をお聞かせください。
Q2 あなたの職業をお聞かせください。
Q3 あなたの居住地をお聞かせください。

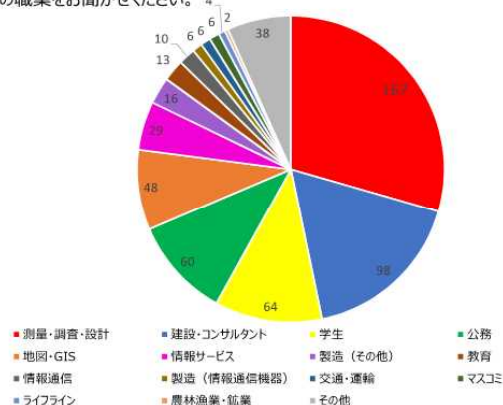
Q1 あなたの年代をお聞かせください。



(Q1 あなたの年代をお聞かせください。)

回答	回答数	%
50代	172	30.3%
40代	141	24.9%
20代	94	16.6%
30代	71	12.5%
60代	59	10.4%
10代	17	3.0%
70代以上	13	2.3%
合計	567	5.3%

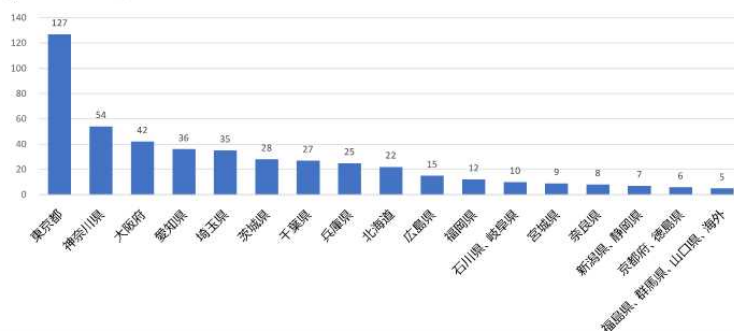
Q2 あなたの職業をお聞かせください。



(Q2 あなたの職業をお聞かせください。)

回答	回答数	%
測量・調査・設計	167	29.5%
建設・コンサルタント	98	17.3%
学生	64	11.3%
公務	60	10.6%
地図・GIS	48	8.5%
情報サービス	29	5.1%
製造 (その他)	16	2.8%
教育	13	2.3%
情報通信	10	1.8%
製造 (情報通信機器)	6	1.1%
交通・運輸	6	1.1%
マスコミ	6	1.1%
ライフライン	4	0.7%
農林漁業・鉱業	2	0.4%
その他	38	6.7%
合計	567	100.0%

Q3 あなたの居住地をお聞かせください。(注：グラフは5名以上の地域。)



(Q3 あなたの居住地をお聞かせください。)

回答	回答数	%
東京都	127	22.4%
神奈川県	54	9.5%
大阪府	42	7.4%
愛知県	36	6.3%
埼玉県	35	6.2%
茨城県	28	4.9%
千葉県	27	4.8%
兵庫県	25	4.4%
北海道	22	3.9%
広島県	15	2.6%
福岡県	12	2.1%
石川県、岐阜県	各10	各1.8%
宮城県	9	1.6%
奈良県	8	1.4%
新潟県、静岡県	各7	各1.2%
京都府、徳島県	各6	各1.1%
福岡県、群馬県、山口県、海外	各5	各0.9%

[表] 4名以下の地域

4名 (各0.7%)	3名 (各0.5%)	2名 (各0.4%)	1名 (各0.2%)	0 (0.0%)
岩手県	富山県	栃木県	青森県	和歌山県
秋田県	福井県	三重県	山梨県	香川県
山形県	鳥取県	滋賀県	熊本県	高知県
長野県	島根県	愛媛県		
佐賀県	岡山県	大分県		
鹿児島県	長崎県	宮崎県		
沖縄県				

[参考] 開催実績

開催実績

名 称		会 期	会 場	来場数等
1	G空間EXPO	2010(H22) 9/19日～21火	パシフィコ横浜 [使用面積10,000㎡]	36,819人
2	G空間EXPO2012	2012(H24) 6/21木～23土	パシフィコ横浜 [6,700㎡]	18,143人
3	G空間EXPO2013	2013(H25) 11/14木～16土	日本科学未来館(東京都江東区) [使用面積約2,000㎡]※1	17,584人
4	G空間EXPO2014	2014(H26) 11/13木～15土	日本科学未来館	20,311人
5	G空間EXPO2015	2015(H27) 11/26木～28土	日本科学未来館	18,856人
6	G空間EXPO2016	2016(H28) 11/24木～26土	日本科学未来館	19,138人
	G空間EXPO2016in仙台	" 10/5水	仙台国際センター(仙台市青葉区)	128人
	G空間EXPO 2016in大阪	" 10/24月～25火	ATCホール(大阪市住之江区)	150人
7	G空間EXPO2017	2017(H29) 10/12木～14土	日本科学未来館	20,450人
	北陸G空間フォーラムin新潟	" 9/20水	朱鷺メッセ(新潟市中央区)	94人
	九州G空間フォーラムin鹿児島	" 11/8水～9木	かごしま県民交流センター(鹿児島市)	205人
8	G空間EXPO2018	2018(H30) 11/15木～17土	日本科学未来館	10,623人 ※2
	北海道G空間フォーラムin札幌	" 7/18水～22土	かでる2・7ほか(札幌市)	836人
	中国G空間フォーラムin広島	" 9/13木～14金	JMSアステールプラザ(広島市)	350人
9	G空間EXPO2019	2019(R元) 11/28木～30土	日本科学未来館	15,513人
	中部地理空間フォーラムin岐阜	" 10/11金 ※3	ぎふメディアコスモスほか(岐阜市)	143人
	四国地理空間フォーラムin松山	" 11/8金～9土	松山市総合コミュニティセンター(松山市)	175人
10	G空間EXPO2020	オンライン開催 ※4 2020(R2)11/24火～12/27日	—	(アクセス数) 58,306
11	G空間EXPO2021	実地開催 2021(R3) 12/7火～8水	東京都立産業貿易センター浜松町館 (東京都港区) [使用面積約1,534㎡]	(来場数) 1,022人
		オンライン開催 2021(R3) 12/1水～26日	—	(アクセス数) 51,330

※1 日本科学未来館における使用面積はこの翌年以降も同じ。

※2 来場者数カウント方法をこの年から精緻化した。

※3 台風接近のため、予定されていた第2日(10/12 土)の開催を中止した。

※4 感染症拡大防止の観点から実地開催を中止しオンラインにより実施。翌年度(2021)は実地、オンラインの併用で開催した。

G空間EXPO2021開催報告書

令和4年2月28日

G空間EXPO運営協議会事務局

